「第６回小児がん拠点病院の指定に関する検討会」における説明資料

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

東海・北陸ブロック

名古屋大学医学部附属病院

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

資料1

診療実績

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍								その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療を施した児童数	相談支援センター相談件数
H23年 376	10	4	0	1	1	4	1	0	0	1	0	0	1	5	0	1	5	5	3	1	24	3	62	22	27	4	81
H24年 421	12	3	0	0	1	4	0	0	0	5	0	0	2	12※	1	4	2	6	2	0	26	4	65	44	34	4	90
H25年 373	14	3	0	2	6	4	2	0	0	1	0	0	0	16	1	5	4	7	5	1	25	8	73	45	32	5	107

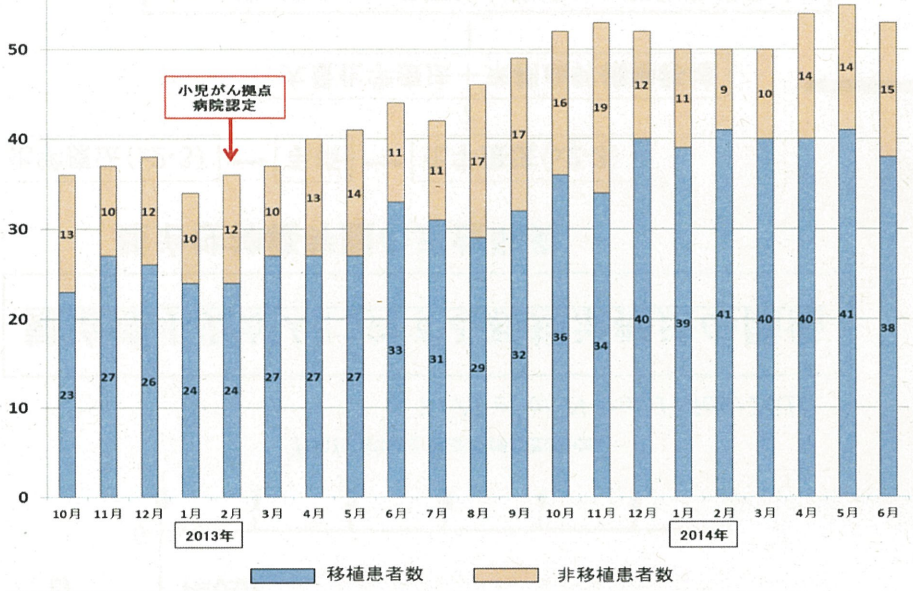
※　現況報告書は3で提出したが、再調査後12に変更

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

指定前後の変化１

資料2-1

名大病院小児科血液・がん入院患者数の増加



小児がん治療センターの設立（H25年10月）



小児患者家族滞在施設 『ドナルド・マクドナルド・ハウス　なごや』完成(H26年1月)



- ●AYA世代用プレイルーム（ティーンズルーム）の新設
- ●入院患者のきょうだいの待機場所の新設
- ●院内学級（小学部・中学部）の移転・拡充
- ●小児科病棟に3床の無菌室をH26年度中に増床

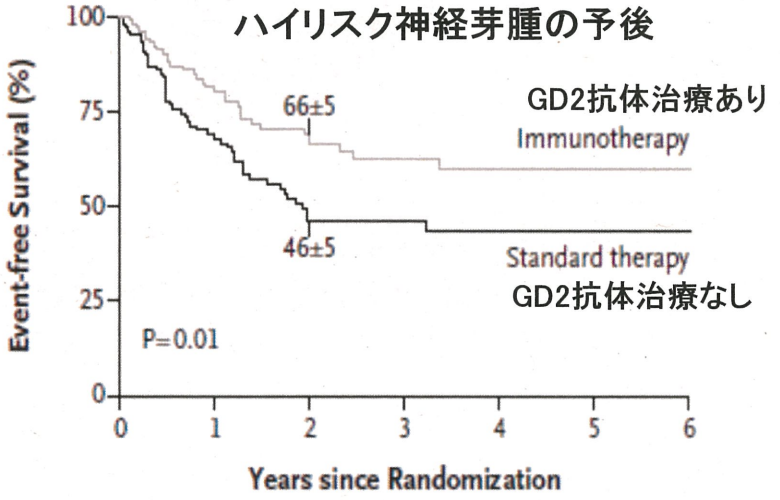
- ●小児緩和ケア講演会の開催（外部講師招聘、H26年2月）
- ●緩和チームに精神腫瘍医（サイコオンコロジスト）の配置
- ●小児血液・がん診療研修の受け入れ
  （3名：名古屋市立大学、日本大学、東北大学より）

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

指定前後の変化2

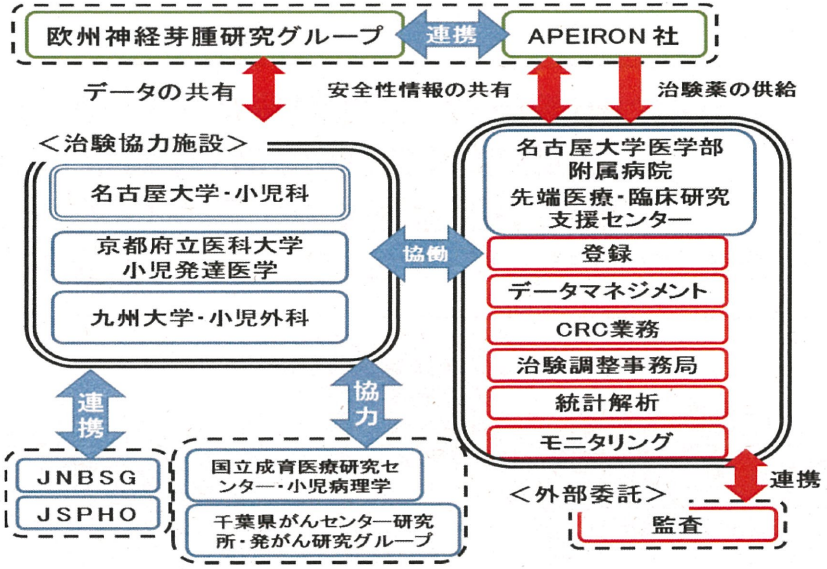
資料2-2

小児がん臨床治験の推進
＝ドラッグラグ解消に向けて



Yu AL et al. N Engl J Med. 2010.

抗GD2抗体医師主導治験の開始（H26.6.11）
（日本医師会治験推進研究費取得）



難治性小児がんに対する新規治療法の開発

難治性神経芽腫の治療開発

化学療法（x2-3） → 手術 → 化学療法（x2-3）
↓
大量化学療法＋末梢血幹細胞移植
↓
KIRリガンドミスマッチ臍帯血移植（NK細胞免疫療法）
↓
局所放射線療法
↓
13シスレチノイン酸による分化誘導療法

国際学会の臨床部門で優秀賞受賞（H26.5.14）



ANR 2014
ドイツ
ケルン

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

事業実績報告

資料3

●実績報告に記載の項目

病院名：名古屋大学医学部附属病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費　13．8百万円

・小児がん医療従事者研修事業　0．3百万円
　……各種研修会（ブロック拠点病院研修会等）
・院内がん登録促進事業　0百万円
・がん相談支援事業　0百万円
・プレイルーム運営事業　13．5百万円
　……保育士・CLSの給与（3名分）
・入院患者家族支援事業　0百万円

●拠点病院予算以外の経費について
・院内学級移転・ティーンズルーム新設費用　17．5百万円
・プレイルーム運営事業（保育士・CLSの給与（1名分））　5．0百万円
・入院患者家族支援事業（舗装工事）　0．3百万円
・がん相談支援事業（看護師1名分の給与）　3．3百万円

●今後の予定
・無菌室3床増床　120．0百万円

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

今後の整備スケジュール1

資料4-1

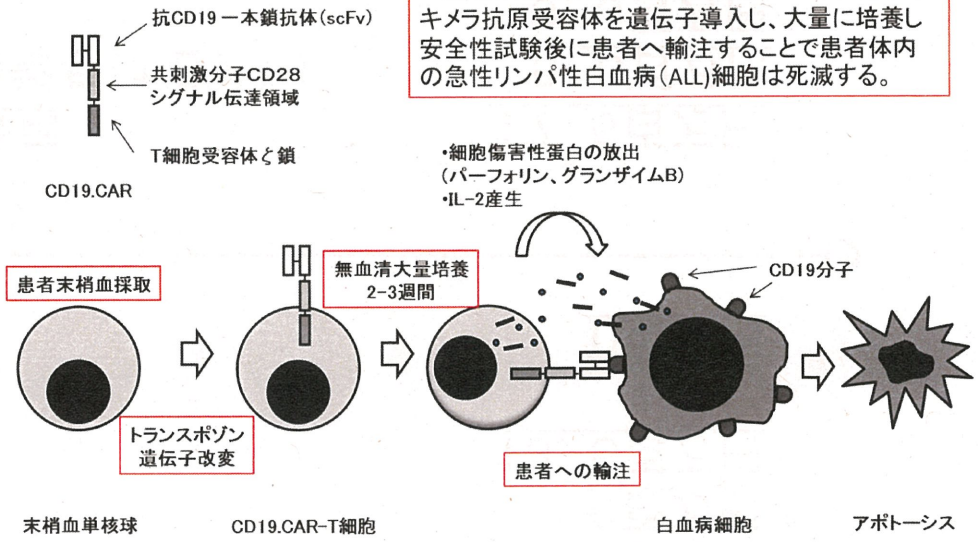
再発難治急性リンパ性白血病に対するキメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞(CAR-T)療法



米国フィラデルフィア小児病院、2012年12月

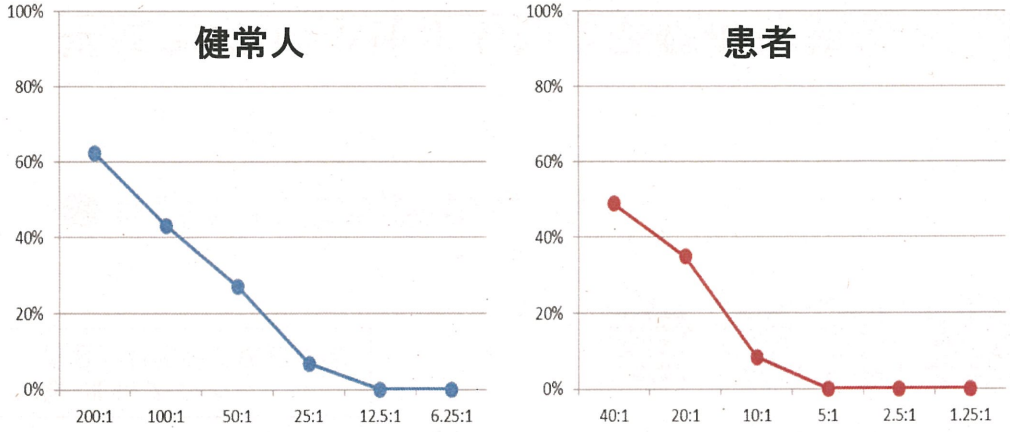
CAR-T療法の概要

＊患者末梢血より採取したT細胞にCD19に対するキメラ抗原受容体を遺伝子導入し、大量に培養し安全性試験後に患者へ輸注することで患者体内の急性リンパ性白血病(ALL)細胞は死滅する。

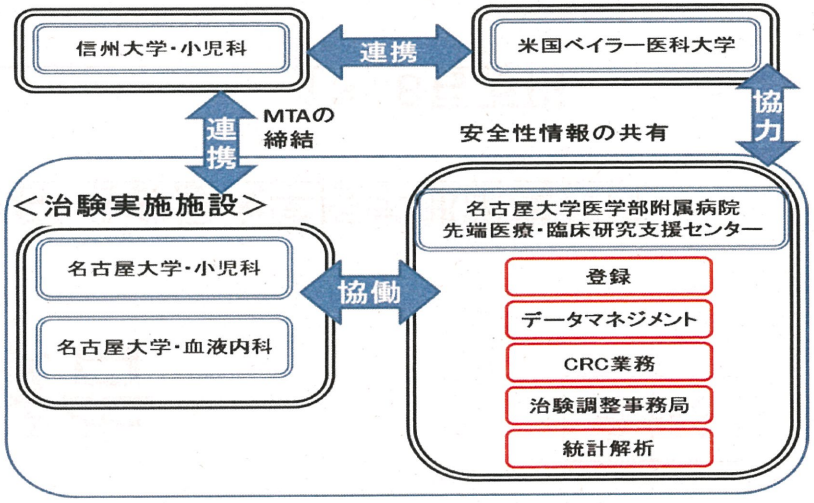


非ウイルスベクターを用いたCAR-T療法(名古屋大学・信州大学共同研究)

白血病に対する傷害活性



厚労省革新的がん医療事業実用化研究費採択(H26年6月)



東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

今後の整備スケジュール２

資料4-2

アジア小児がんセンター病院との連携

アジア小児がんセンターコンソーシアム（名古屋、H26. 5. 30）



	上海小児病院	北京小児病院	天津血液センター	サムソンがんセンター	アサンがんセンター	台湾大学病院	名古屋大学病院
総ベッド数	111	110	83	50	43	55	50
年間新規患者数							
急性リンパ性白血病	220	200	175	30	30	25	10
急性骨髄性白血病	70	80	55	12	16	10	5
神経芽腫	50	100	0	30	10	12	12
造血細胞移植数	115	250	0	100	55	23	30
臨床医師数	30	46	15	20	11	50	13
研究者（PhD）数	4	9	5	2	2	10	4
研究施設	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
細胞調整センター	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり

人材相互交流（小児がん研修）

天津血液センター
⟶ 名古屋大学病院

名古屋大学病院
⟶ サムソンがんセンター

共同研究プロジェクト

先天性骨髄不全症診断・登録
神経芽腫治療研究
再生不良性貧血治療研究
悪性リンパ腫解析研究

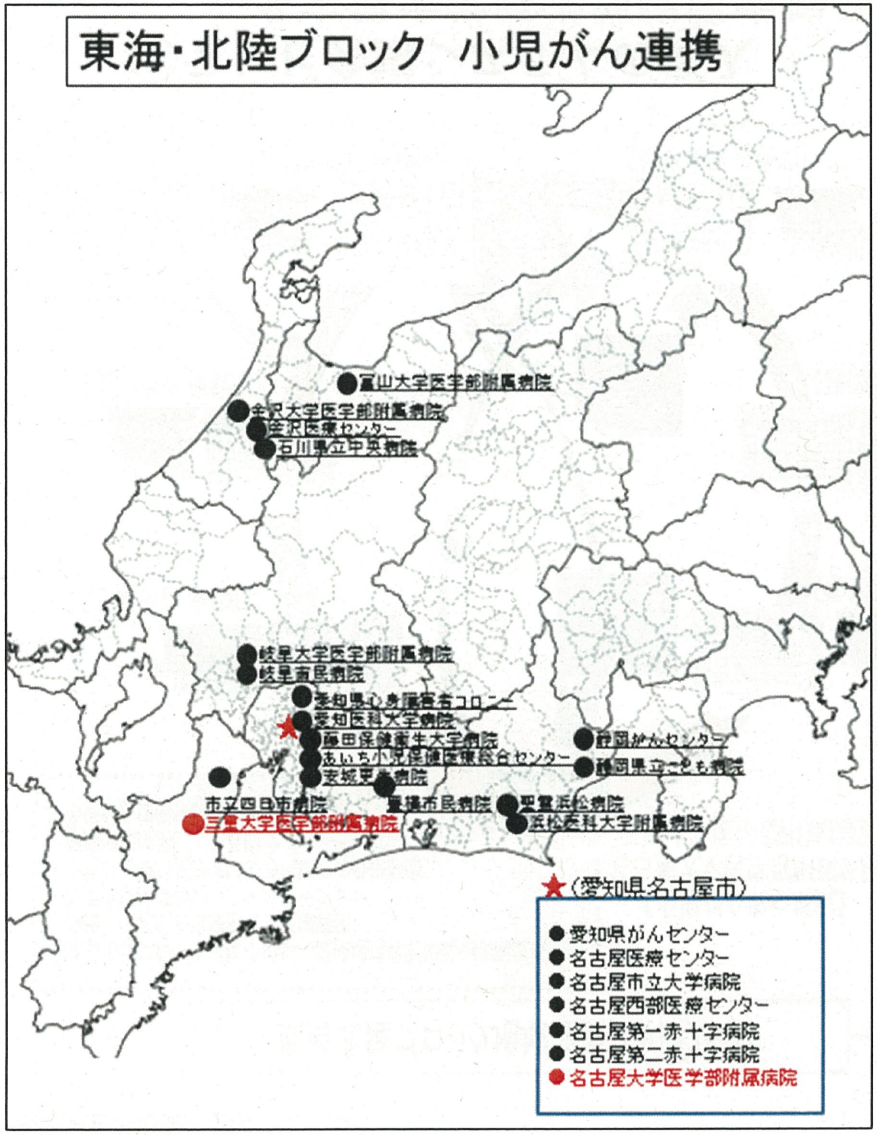
小児がん地域ブロック整備の進捗状況について

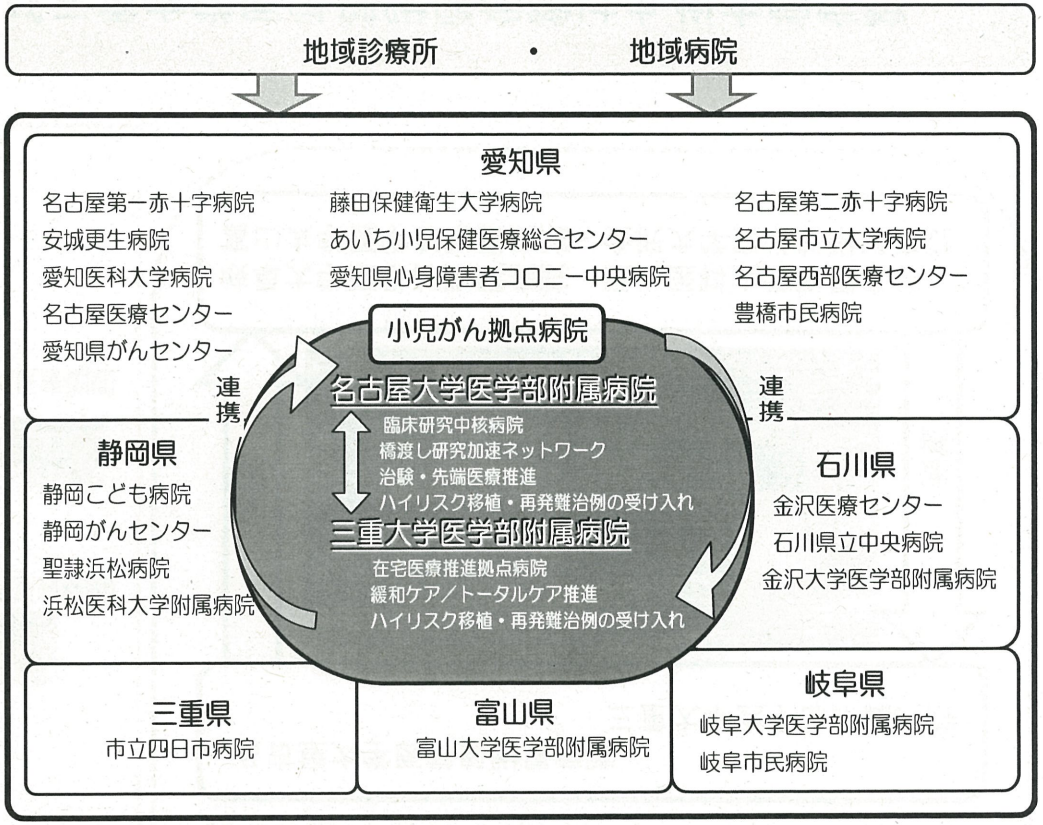
東海・北陸ブロック

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

地域ブロックの概要

資料1





拠点病院（名古屋大学病院・三重大学病院）

↓　↑

・連携病院からの紹介患者数・・・33人

・連携病院への逆紹介患者数・・・24人

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

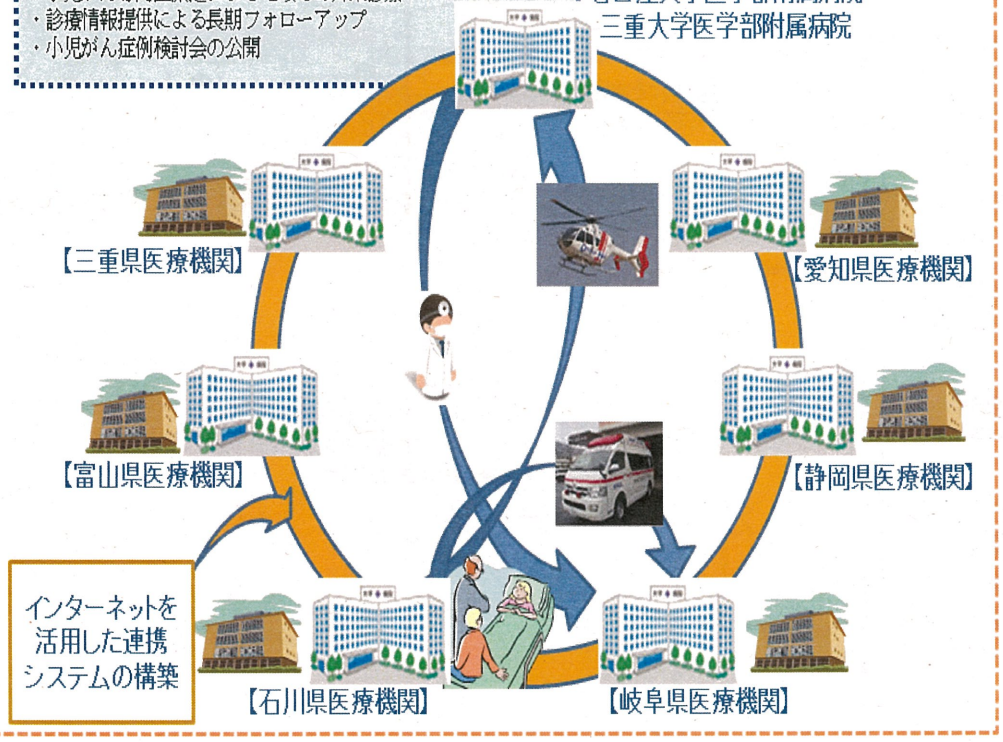
今後の整備スケジュール１

資料2-1

●地域連携

東海北陸ブロック地域連携ネットワーク

・東海北陸ブロック地域小児がん医療連携体制協議会参画医療機関の他、小児がん治療を行う医療機関
・診断及び治療等のコンサルテーション
・小児がん専門医派遣による地域での外来診療
・診療情報提供による長期フォローアップ
・小児がん症例検討会の公開



国立大学病院連携システム

国立大学病院連携システムは、九州大学病院が基点となっており、全国国立大学全て導入するシステムである。

名古屋大学医学部附属病院
三重大学医学部附属病院



連携　連携

岐阜大学医学部附属病院・浜松医科大学附属病院
富山大学医学部附属病院・金沢大学医学部附属病院

①テレビ会議システムの導入
→名古屋大学医学部附属病院及び三重大学医学部附属病院は九州大学病院が基点となった国立大学病院連携会議システムがあるため、現状のテレビ会議システムを拡張させたシステムを検討している。

東海・北陸ブロック
名古屋大学医学部附属病院

今後の整備スケジュール２

資料2-1

②研修会の北陸ブロックでの開催
→東海・北陸ブロック小児がん拠点病院・診療病院で行われている各種研修会（年８回程度）中部小児がんトータルケア研究会、東海小児がん研究会、東海小児造血細胞移植研究会及び東海小児血液懇話会など小児専門医等による研究会（毎回東海・北陸ブロック小児科医50名以上参加）の開催を今年度１回以上北陸ブロックで開催する。

③各種研修会の開催について
→２５年７月名古屋大学・三重大学において外部講師を招聘して、院内がん登録の研修会を開催した。今年度においても、まず２６年７月に各職種（がん登録・がん相談・ＣＬＳ等）において、まず拠点病院間で検討し、各病院の実務者に意見聴取した上で研修会を開催予定である。

④小児がん治療薬治験、先端医療の推進に「中部先端医療開発円環コンソーシアム」を利用
→先端医療の開発にあたっては、東海・北陸地方の10大学及び厚生労働省の2センターから構成される中部先端医療開発円環コンソーシアムが設立されているため、GD2抗体医師主導治験、CAR-T細胞療法等を進め、新規小児がん治療法の開発を行う。

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

関東甲信越ブロック

国立成育医療研究センター

第６回小児がん拠点病院の指定に関する検討会

2014.7.14

関東甲信越ブロック
国立成育医療研究センター

診療実績

資料1

	平成23年	平成24年	平成25年
造血器腫瘍	28件	38件	24件
ALL	4件	14件	9件
AML	4件	5件	4件
CML	0件	0件	0件
まれな白血病	0件	0件	3件
MDS/MPO	0件	2件	1件
非ホジキンリンパ腫	6件	6件	0件
ホジキンリンパ腫	0件	0件	0件
その他のリンパ増殖性疾患	0件	0件	0件
組織球症　HLH	7件	1件	0件
組織球症　LCH	3件	7件	5件
その他の組織球症	2件	2件	0件
その他の造血器腫瘍	0件	0件	2件
ダウン症TAM登録	2件	1件	0件
固形腫瘍	55件	62件	53件
神経芽腫瘍群	2件	7件	7件
網膜芽腫	17件	10件	7件
腎腫瘍	0件	3件	1件
肝腫瘍	3件	5件	7件
骨腫瘍	3件	0件	1件
軟部腫瘍	3件	1件	3件
胚細胞腫瘍	2件	6件	2件
脳・脊髄腫瘍	24件	30件	23件
その他	1件	4件	2件

	平成23年	平成24年	平成25年
小児がん入院患者延べ数	223人	369人	618人
小児がん入院在院延べ日数	8,471日	10,614日	12,921日
全入院患者延べ数	11,778人	12,902人	13,546人
全入院患者入院在院延べ日数	134,871日	143,583日	146,797日
地域連携			
他施設から紹介された小児がん患者数	91人	83人	69人
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	58件	62件	56件
小児がん患者の他施設への紹介患者数	97人	7人	20人
小児がん患者を紹介した医療機関数	70件	7件	15件
緩和ケア			
緩和ケアチーム新規診療小児がん患者数	12件	16件	19件
相談支援センター相談件数	238件	647件	1,112件
セカンドオピニオン小児がん患者数	25件	29件	43件

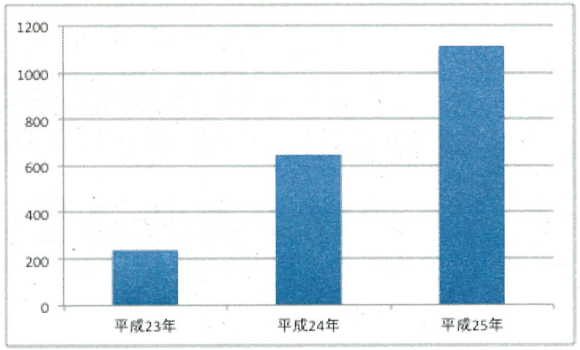
関東甲信越ブロック
国立成育医療研究センター

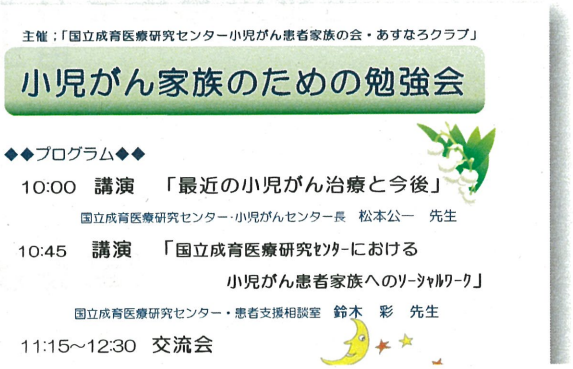
指定前後の変化　進捗があった点

資料2

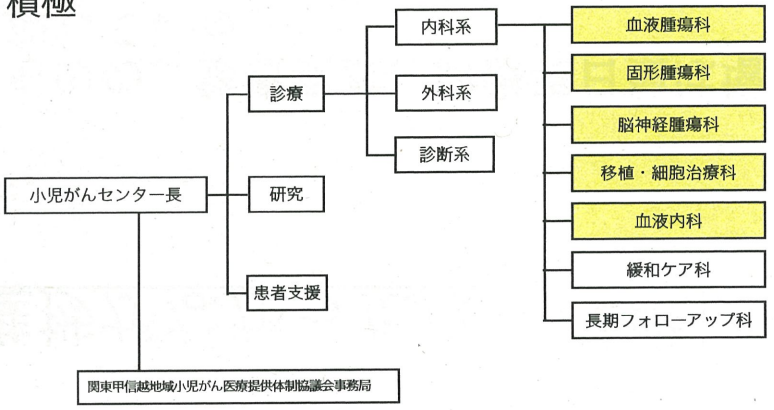
・平成２５年９月に、小児がんセンターを組織し、小児がんセンター長、脳神経腫瘍科医長、血液腫瘍科医長、移植・細胞治療科医長、血液科医長を選定した。
・造血細胞移植体制の見直しを行い、輸血療法室の体制整備を行った。
・小児がん相談支援センターの相談員2名が院内の新規患者にほぼ全件介入するようになり、相談件数が増加した。
・相談支援センター内に情報コーナーを設置し、小児がん情報専用コーナーを設置した。
・子どもと家族のための支援チームを発足させ、心理士、MSW、看護師、医師など多職種による総合的な支援を検討できる体制を整えた。
・教育支援としてベッドサイド教育に活用するためのタブレット端末を院内学級の教員に貸与した。
・これまで院内学級の教員と個々のケースでは連携していたが、教育支援の幅を広げるために月1回のミーティングを行うようになった。
・患者会との交流・支援として、活動場所を提供し、患者会の活動にも積極的に院内スタッフが協力した。

小児がん相談件数の増加





小児がんセンターの構成









関東甲信越ブロック
国立成育医療研究センター

指定前後の変化　進捗がなかった点

資料2

・新入院患者数の増加はなかった

⟶ 新入院件数の明らかな増加はなかったものの、診療実数、診療実日数は増加している。セカンドオピニオンも増加している。

・対外的な広報活動が十分できなかった。

⟶ ホームページ全面改訂を計画（平成２６年１０月予定）。

・人材育成が十分できなかった。

⟶ 診療に手一杯であり、人材育成のマンパワーが不足。
医長など指導者の布陣を固めても、研修を受け入れる予算が不足。

・相談支援センターにおいては院外に対する広報ができなかった。

⟶ 2名の相談員でこれ以上の相談を受けることは厳しいため、相談員の増員は必要。さらに、中央機関としての相談員研修を行うには、マンパワーが不足。

・情報コーナーを設置しているが、場所が良くない

⟶ 利用しやすい新しいスペースを確保する必要あり。

関東信越ブロック
独立行政法人国立
成育医療研究センター

資料3

事業実績報告

病院名：独立行政法人国立成育医療研究センター

平成２５年度小児がん拠点病院機能強化事業費　　１４百万円

・小児がん医療従事者研修事業　　0.7百万円
　需用費・備品購入費・会議費

・院内がん登録促進事業　　1.4百万円
　給与・共済費・備品購入費

・がん相談支援事業　　8.4百万円
　給与・共済費・図書購入費

・プレイルーム運営事業　　3.4百万円
　給与・共済費・備品購入費

・入院患者家族支援事業　　0.02百万円
　図書購入費

整備・集約

関東甲信越ブロック
拠点病院

今後の整備スケジュール

資料4

現在　26.12　27.4　27.8　27.12　28.4

情報公開

医療機関情報
（診療実績・療養環境など
長期FUの取組み
定期的な症例検討

HP立案　発注　納品 → HP　開設 → 情報公開　問合せ対応
情報収集
情報提出 → HP掲載 → 情報公開　問合せ対応

診療集約化

再発・難治・希少がん診療
試験

早期開発
臨床試験
国際臨床共同

試験情報収集 → HP　掲載 → 情報公開による集約化　問合せ対応
試験推進　参加 → 試験実施 → HP　掲載 → 情報公開による集約化　問合せ対応

問合せ対応

相談窓口

開設 → 問合せ先　HP　掲載 → 問合せ対応

普及啓発

講演会
患者向け ／　医療従事者向け

企画 → 開催　企画 → 開催　企画

連携

東京都小児がん連携ﾈｯﾄﾜｰｸ

25.8月から　連携中

人材育成

人材交流

小児がん看護師
小児緩和ケア

課題検討 → 立案 → 受入れ実施 → 体制整備 → 業務標準化 → 体制の拡大

研修・勉強会

医師
病理
放射線
看護師
相談員

企画 → 実施参加　企画 → 実施参加

25’緩和ケア研修
25’3　東京都

開催予定：　26’10　小児がん学会研修委員会　連携

部会



承認依頼 → 設置 → 開設

拠点病院　実施事項

地域病院　実施事項

小児がん地域ブロック整備の進捗状況について

関東甲信越ブロック

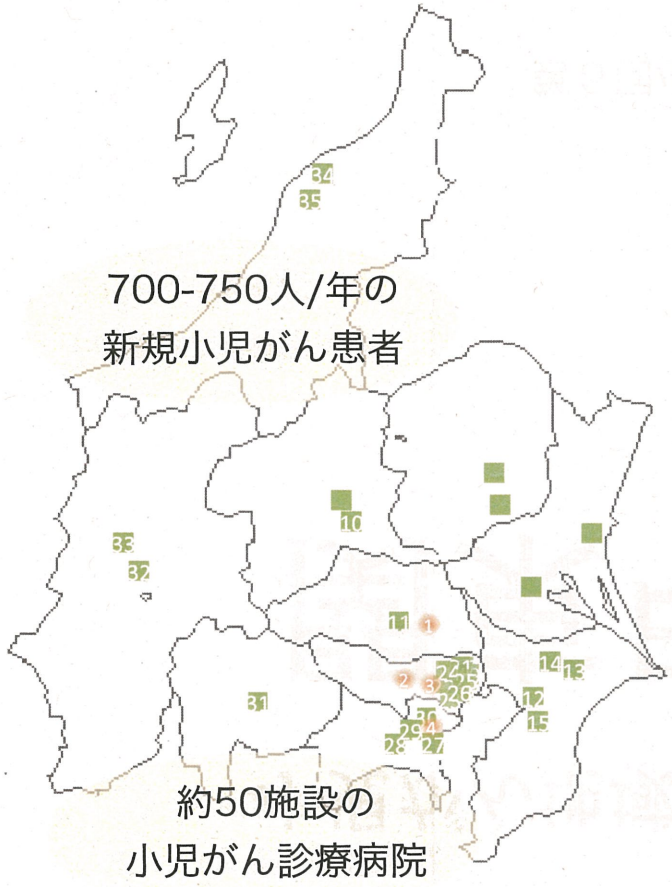
第６回小児がん拠点病院の指定に関する検討会

2014.7.14

関東甲信越ブロック

地域ブロックの概要

資料1-1



行政機関
関東甲信越地域の都県

小児がん拠点病院

1	埼玉県立小児医療センター	埼玉
2	東京都立小児総合医療センター	東京
3	国立成育医療研究センター	東京
4	神奈川県立こども医療センター	神奈川

小児がん診療を担う医療機関

5	茨城県立こども病院	茨城
6	筑波大学附属病院	茨城
7	獨協医科大学病院	栃木
8	自治医科大学附属病院	栃木
9	群馬県立小児医療センター	群馬
10	群馬大学医学部附属病院	群馬
11	埼玉医科大学国際医療センター	埼玉
12	千葉大学医学部附属病院	千葉
13	成田赤十字病院	千葉
14	日本医科大学千葉北総病院	千葉
15	千葉県こども病院	千葉
16	日本大学医学部附属板橋病院	東京
17	帝京大学医学部附属病院	東京
18	東京医科歯科大学医学部附属病院	東京
19	東京大学医学部附属病院	東京
20	東京慈恵会医科大学附属病院	東京
21	日本医科大学付属病院	東京
22	慶應義塾大学病院	東京
23	東邦大学医療センター大森病院	東京
24	順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京
25	聖路加国際病院	東京
26	国立がん研究センター中央病院	東京
27	横浜市立大学附属病院	神奈川
28	東海大学医学部附属病院	神奈川
29	昭和大学藤が丘病院	神奈川
30	聖マリアンナ医科大学病院	神奈川
31	山梨大学医学部附属病院	山梨
32	信州大学医学部附属病院	長野
33	長野県立こども病院	長野
34	新潟大学医歯学総合病院	新潟
35	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟

がんの子どもを守る会(オブザーバー)

日本小児血液・がん学会研修施設を基準として設定

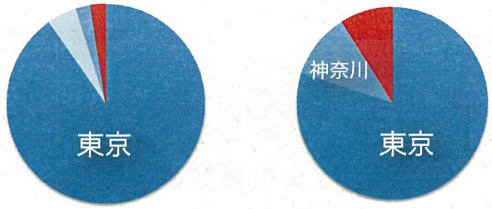
関東甲信越ブロック

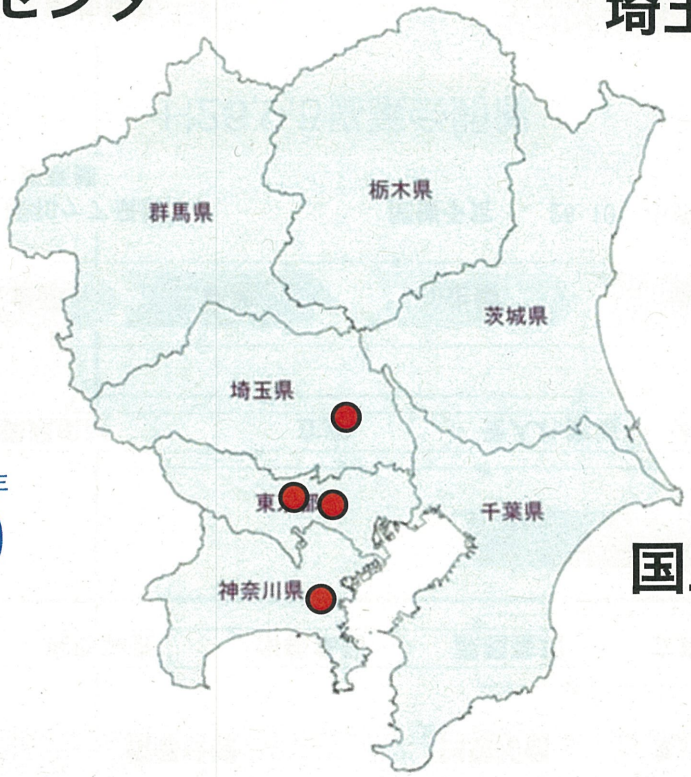
地域ブロックの紹介、逆紹介患者数の推移

資料1-2

東京都立小児医療総合センター

	平成24年	平成25年
紹介	41	45
逆紹介	16	30
放射線治療	8	16



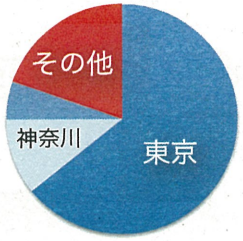


埼玉県立小児医療センター

	平成24年	平成25年
紹介	73	75
逆紹介	8	8

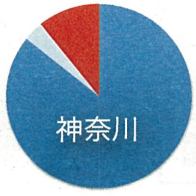
国立成育医療研究センター

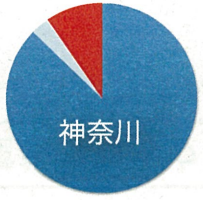
	平成24年	平成25年
紹介	83	69
逆紹介	7	20

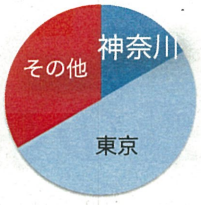


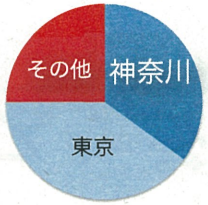
神奈川こども医療センター

	平成24年	平成25年
紹介	63	56
逆紹介	12	20







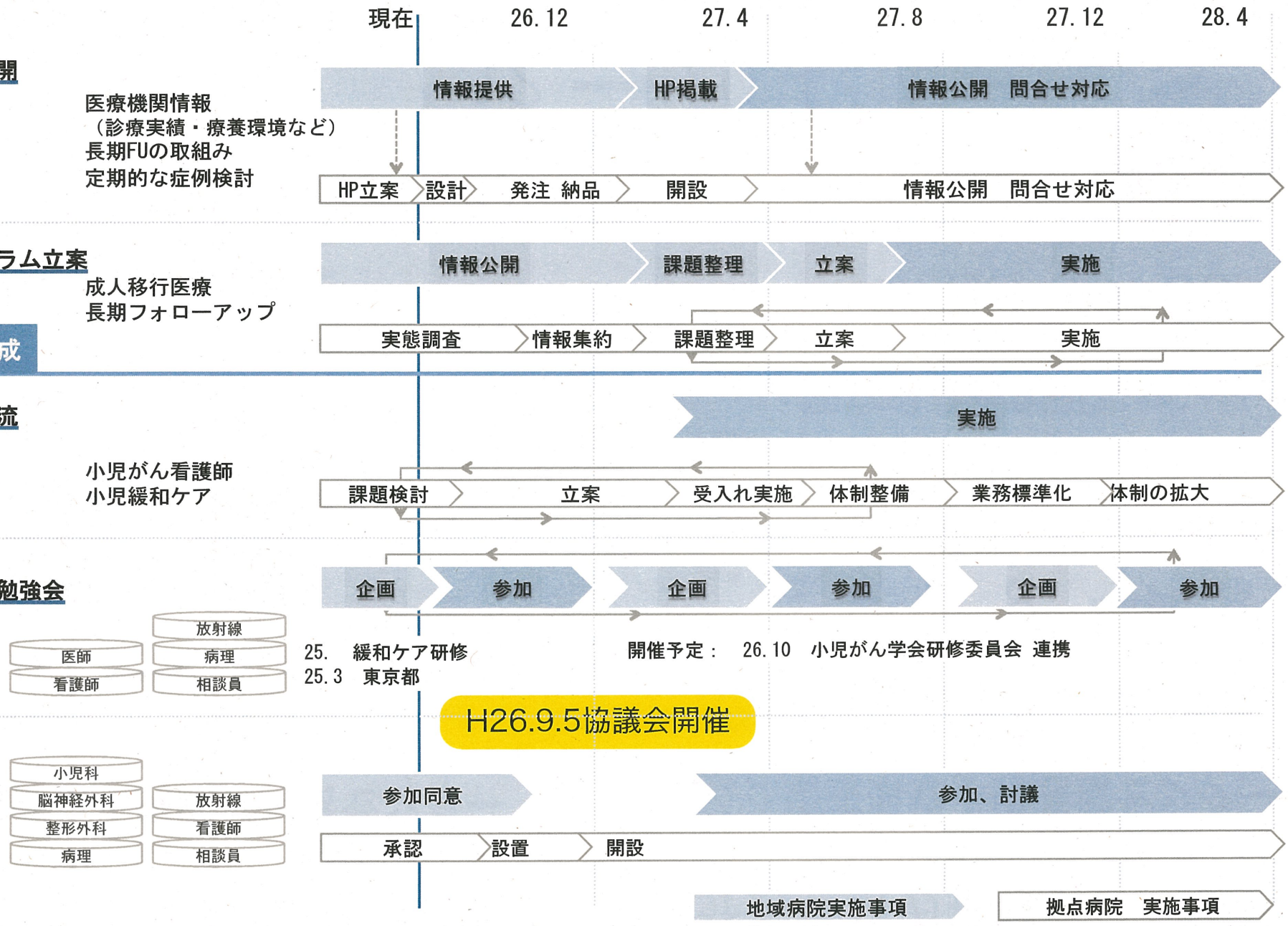


地域連携

関東甲信越ブロック

今後の整備スケジュール

資料2



小児がん拠点病院整備の進捗状況について

近畿ブロック

大阪府立母子保健総合医療センター

近畿ブロック
大阪府立母子保健総合医療センター

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携		緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍								その他				
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療を施した児童数	相談支援センター相談件数
(212) 316 333	(7) 8 8	(2) 7 3	(0) 0 0	(0) 2 0	(2) 3 3	(0) 2 6	(1) 1 0	(6) 11 5	(0) 1 2	(0) 3 2	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 0 1	(4) 3 4	(1) 4 2	(3) 0 0	(3) 5 1	(0) 0 1	(1) 3 3	(3) 4 2	(9) 4 4	(1) 2 1	(39) 59 41	(34) 43 31	(12) 27 14	(11) 13 11	35 43

- （　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値、
  下段はH25年1月～12月の数値

近畿ブロック
大阪府立母子保健総合医療センター

資料2

指定前後の変化

- 進捗があった点

１．小児がん拠点病院推進委員会の立ち上げ
２．小児がんセンター（施設内）の開設
３．大阪府小児がん連携施設連絡会の構築(年2回)
４．研修会、講演会の開催(計10回)
５．新ファミリーハウスの使用開始

近畿ブロック
大阪府立母子保健総合医療センター

資料2

指定前後の変化

- 進捗が無かった点

1．子どもの緩和ケアマニュアル作成途上

- 院内パブリックコメント収集が終わっており、ほぼ完成している。

2．ピアサポート体制の構築途上

- 小児がん経験者グループとの意見交換・連携を開始している。

3．地域連携クリニカルパス計画中

- 成人のクリニカルパス（大阪府がん診療連携協議会）を参考にして作成する予定である。

近畿ブロック
大阪府立母子保健総合医療センター

資料3

事業実績報告

●実績報告に記載の項目

病院名：大阪府立母子保健総合医療センター

平成２５年度小児がん拠点病院機能強化事業費	１３．５百万円
・小児がん医療従事者研修事業	０．６百万円
・院内がん登録促進事業	０．６百万円
・がん相談支援事業	８．１百万円
・プレイルーム運営事業	４．２百万円
・入院患者家族支援事業	０百万円

近畿ブロック
大阪府立母子保健総合医療センター

資料4

今後の整備スケジュール

集学的治療及び標準的治療の提供

地域連携クリニカルパス導入

子どもの緩和ケアマニュアル完成・運用開始

ピアサポート体制の構築

２０１４　２０１５　２０１６　２０１７

小児がん地域ブロック整備の進捗状況について

近畿ブロック

近畿ブロック

資料1

近畿ブロックの概要

No.	カテゴリ	施設名	紹介数		逆紹介数	
			H２４	H２５	H２４	H２５
1	拠点病院	京都府立医科大学附属病院	26	37	32	36
2	拠点病院	京都大学医学部附属病院	99	55	61	30
3	拠点病院	兵庫県立こども病院	85	74	7	36
4	拠点病院	大阪市立総合医療センター	147	91	59	41
5	拠点病院	大阪府立母子保健総合医療センター	59	41	27	14
6	診療病院	国立病院機構舞鶴医療センター				
7	診療病院	京都市立病院				
8	診療病院	京都桂病院				
9	診療病院	滋賀医科大学附属病院				
10	診療病院	大津赤十字病院				
11	診療病院	福井大学医学部附属病院				
12	診療病院	福井赤十字病院				
13	診療病院	姫路赤十字病院				
14	診療病院	兵庫県立塚口病院				
15	診療病院	西神戸医療センター				
16	診療病院	神戸大学医学部附属病院				
17	診療病院	兵庫医科大学病院				
18	診療病院	明石市立市民病院				
19	診療病院	大阪大学医学部附属病院				
20	診療病院	大阪市立大学医学部附属病院				
21	診療病院	近畿大学医学部附属病院				
22	診療病院	国立病院機構大阪医療センター				
23	診療病院	関西医科大学附属枚方病院				
24	診療病院	大阪医科大学附属病院				
25	診療病院	大阪赤十字病院				
26	診療病院	北野病院				
27	診療病院	松下記念病院				
28	診療病院	奈良県立医科大学附属病院				
29	診療病院	天理よろづ相談所病院				
30	診療病院	近畿大学医学部奈良病院				
31	診療病院	和歌山県立医科大学附属病院				
32	診療病院	日本赤十字社和歌山医療センター				

◎ブロック北部



◎ブロック中部



◎ブロック南部

近畿ブロック

資料2

今後の整備スケジュール

近畿ブロック小児がん拠点病院協議会（年2回）

近畿ブロック小児がん診療病院連絡会（年1回）

人材交流（とくに若手の相互研修）システムの構築

２０１４　　２０１５　　２０１６　　２０１７

第6回小児がん拠点病院の指定に関する検討会
（厚生労働省　2014年7月14日）

広島大学

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

中国・四国ブロック：広島大学病院









広島大学病院
新診療棟
2013年9月20日
オープン

○ 小児科教授：小林 正夫
小児科講師：川口 浩史
患者支援センター：藤本 利夫

中国四国ブロック
広島大学病院

診療実績

広島大学

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																				地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍												固形腫瘍								その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＭのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新で療実し小が患数が規診を施た児ん者	支援センター相談件数
(186) 250 302	(3) 3 4	(3) 4 3	(1) 0 1	(0) 1 0	(0) 2 0	(3) 3 0	(1) 0 0	(0) 0 0	(1) 1 0	(1) 5 5	(0) 0 0	(0) 0 0	(3) 0 1	(3) 8 10	(0) 1 2	(1) 2 2	(2) 3 4	(4) 1 2	(1) 2 3	(1) 0 2	(15) 20 20	(2) 1 0	(45) 45 58	(28) 30 30	(4) 2 4	(45) 45 40	(0) 6 31

・（ ）内は平成24年10月9日〆提出の新規指定申請書の数値（平成23年1-12月）
・中段は平成25年12月末提出の現況報告の数値（平成24年1−12月）
・下段は平成25年1−12月の数値

小児がん拠点病院指定前後の変化

広島大学

集学的治療及び標準的治療の提供

1. チームによる集学的治療及び標準的治療の実施体制 → **進捗あり**
   小児内科（血液・腫瘍）スタッフ増員，小児外科，脳神経外科，整形外科，頭頸部外科，眼科，血液内科，放射線治療科，がん化学療法科など）との連携は確立　種々の化学療法プロトコールの承認
   定期的キャンサーボードの開催

2. 専門的知識及び技能を有する医療従事者及び療養を支援する者の確保及び配置 → **進捗あり**
   小児専門看護師の患者支援センターへの配置，院内保育士配置（2014年6月から配置，チャイルド・ライフ・スペシャリストの増員（今年度から予定）　身体面，心理面，生活面のトータルケア

3. 再発がん及び難治がんへの対応 → **進捗あり**
   造血細胞移植の充実と拡大，ミスマッチ移植の増加，神経芽腫に対する新規治療（厚労科研）

4. 患者が増えた場合の病床確保等の対応 → **現状維持**
   広島赤十字原爆病院との病床管理　テレビ会議を利用した症例相談

5. 思春期のがん患者への診療体制 → **現状維持**
   造血器疾患：血液内科との連携　整形外科，頭頸部外科，脳神経外科，放射線治療科，がん化学療法科との連携促進

6. 緩和ケアチームによる緩和ケアの実施体制 → **進捗あり**
   緩和ケアチームの増員　チャイルド・ライフ・スペシャリストの増員（今年度から）で初期からの対応

地域連携

7. 医療機関との役割分担 → **進捗あり**
   造血器腫瘍：広島大学病院と広島赤十字病院で診療
   固形腫瘍：すべて広島大学病院で診療　小児血液がん専門医ならびに暫定指導医の取得医師の増加

8. 患者を受け入れる主な地域 → **現状維持**
   中国・四国ブロック内で難治/再発症例，高度な造血幹細胞移植が必要な場合，兵庫県立こども病院との連携

小児がん拠点病院指定前後の変化

広島大学

9. 自施設では十分対応できない疾患及び病態への対応 → **現状維持**
   広島高精度放射線治療センター（2015年度竣工予定）を利用した放射線治療の拡充

10. 長期フォローアップの方法及び晩期合併症への対応 → **現状維持**
   現行の長期フォローアップ外来体制の継続とデータ収集，　二次がんに関する調査

11. 連携の具体的な方法 → **進捗あり**
   中国・四国ネットワークの充実，拠点病院連携としての兵庫県立こども病院の参加

その他

12. 小児がんに関する研修の実施 → **進捗あり**
   中国・四国小児がん研究会の発足（第1回:2014年1月11日，第2回:2015年1月10日予定）
   中国・四国地域小児がん医療意見交換会（2013年11月17日，2014年10月予定）
   小児がん看護研修会（2014年12月予定）

13. 相談支援の体制 → **進捗あり**
   患者支援センターに小児看護専門看護師の配置：小児がん医療相談の拡充，患者会との連携

14. 臨床研究及びトランスレーショナルリサーチの実施体制及び研究の予定 → **進捗あり**
   神経芽腫に対する新規治療（厚労科研），肝芽腫に対する国際共同研究（厚労科研）

15. 患者への教育及び復学支援の実施体制（人材，設備等） → **進捗あり**
   小児看護専門看護師，チャイルド・ライフ・スペシャリスト，臨床心理士の協力でディスチャージプランナー役として復学支援　チャイルド・ライフ・スペシャリストの増員（今年度から）

16. 家族等が利用しやすい長期滞在施設の整備及び運営 → **進捗あり**
   広島大学霞ファミリーハウスの建設（平成27年3月竣工予定）
   敷地面積：約213㎡　施設：5階建て　宿泊施設：12室　大学病院まで徒歩2分
   運営：がんの子どもを守る会広島支部　宿泊費：1,000～1,500円の予定

事業実績報告

広島大学

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費　15百万円

・小児がん医療従事者研修事業　3百万円

事業内容

新規入院患者や再発・難治がん患者についての検討会（7回，延べ281人）

小児がん中国・四国ネットワーク会議：小児がん医療意見交換会（1回，49人）

（参考　支出内訳）：研修用PC（Web会議システム）保守　2,335千円　　画像診断用ディスプレイ　633千円　　会議費　7千円

・院内がん登録促進事業　6百万円

事業内容

院内小児がん登録に従事する職員の雇用

院内小児がん登録の整備・充実

（参考　支出内容）：院内がん登録職員（1人）に係る給与　5,667千円

・がん相談支援事業　3千円

事業内容

患者支援センターに「小児看護専門看護師」を1名配置

中国・四国地域の小児がん患者・医療従事者からの小児がん医療相談の実施

小児がん相談支援に有用な情報の収集，患者も閲覧可能な書籍の購入

小児がん患者家族支援団体,小児がん患者会との連携

小児がん相談支援の広報

（参考　支出内訳）：　参考図書　3千円

・プレイルーム運営事業　6百万円

事業内容

プレイルーム内保育に従事する専従職員（院内保育士）の雇用

プレイルーム（病棟・外来）内の知育玩具（医療用含む）の充実

学習用図書及び絵本等の整備・充実

（参考　支出内訳）：プレイルーム内保育士（1人）に係る給与　5,715千円　　参考図書，医療玩具等　318千円

小児医療診察支援ツール（スマイルタッチ）借上　93千円　　棚修繕　6千円

今後の整備スケジュール

広島大学

集学的治療及び標準的治療の提供

5. 思春期のがん患者への診療体制
   造血器腫瘍：血液内科との連携促進
   その他の腫瘍：関連診療科との連携促進
   （整形外科，頭頸部外科，脳神経外科，放射線治療科，がん化学療法科等）

地域連携

8. 患者を受け入れる主な地域：兵庫県立こども病院との連携

9. 自施設では十分対応できない疾患及び病態への対応：2015年度広島高精度放射線治療センターが竣工予定
   放射線治療の拡充

10. 長期フォローアップの方法及び晩期合併症への対応：ブロック内での長期フォローアップ体制の統一

その他

12. 小児がんに関する研修の実施
   中国・四国小児がん研究会の発足（第2回: 2015年1月10日）
   中国・四国地域小児がん医療意見交換会（第2回: 2014年10月11-12日）
   小児がん看護研修会（2014年12月予定）
   専門医制度資格取得セミナーの開催（学会主導による単位取得）　第1回：2014年9月21日（於　岡山）

14. 臨床研究及びトランスレーショナルリサーチの実施体制及び研究の予定
   神経芽腫に対する新規治療（厚労科研），肝芽腫に対する国際共同研究（厚労科研）

15. 患者への教育及び復学支援の実施体制（人材，設備等）
   チャイルド・ライフ・スペシャリストの増員（今年度 10月から）

16. 家族等が利用しやすい長期滞在施設の整備及び運営
   広島大学霞ファミリーハウスの建設（平成27年3月竣工予定）

広島大学

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

中国・四国ブロック

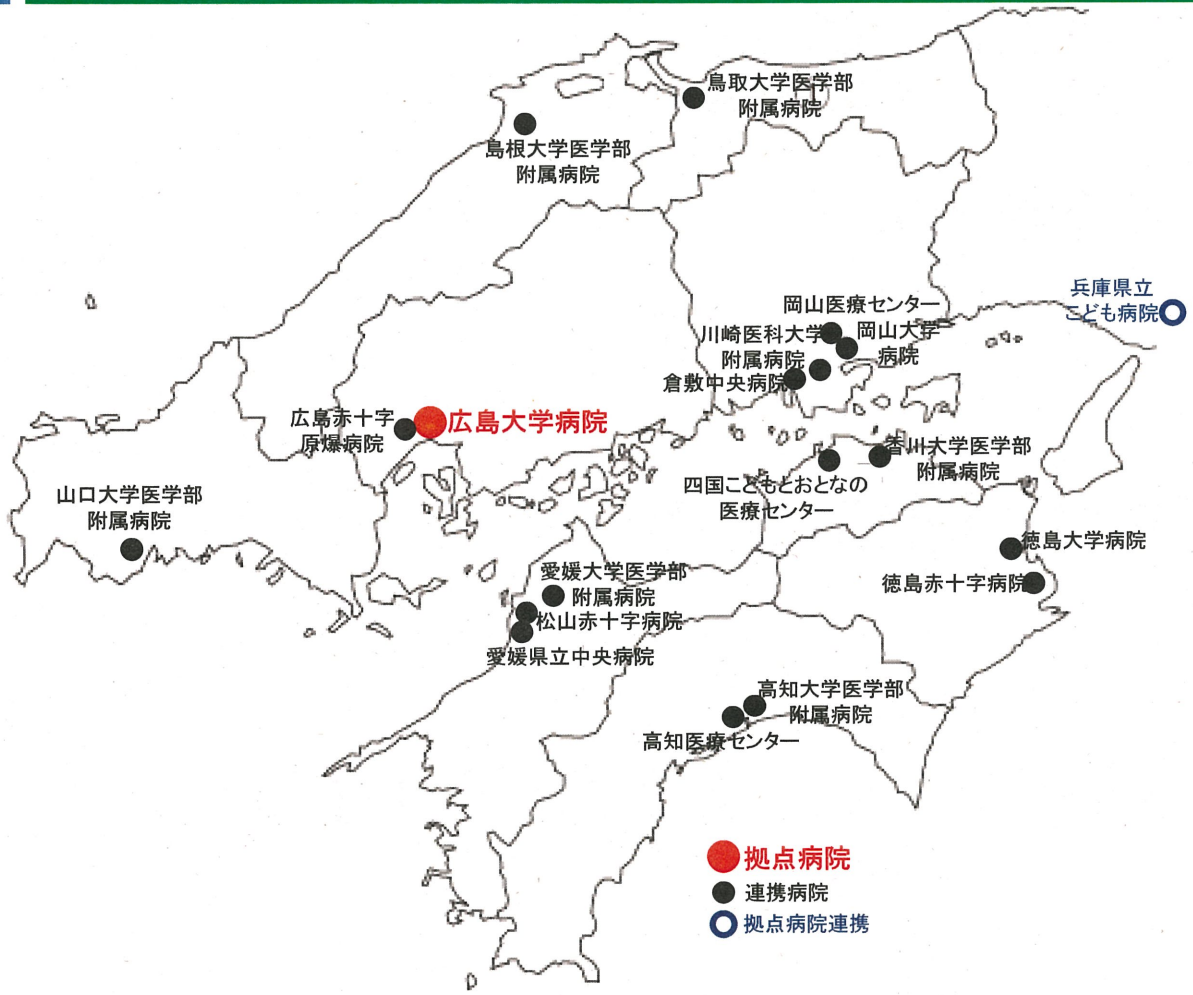
広島大学病院

○ 小児科教授：小林 正夫
小児科講師：川口 浩史
患者支援センター：藤本 利夫

小児がん中国・四国ネットワーク

（2013年7月設立）

広島大学



平成24年 ・紹介患者数 45名：広島 34，山口 9，島根・兵庫各 1
・逆紹介患者数 2名：東京 2（網膜芽腫 1，転居 1）
平成25年 ・紹介患者数 58名：広島 46，山口 6，大阪 2，北海道・愛知・岐阜・高知各1
・逆紹介患者数 4名：東京 3（網膜芽腫 2，転居 1），島根 1（終末期）

拠点病院：広島大学病院

連携病院（小児がん診療病院）：

鳥取県：鳥取大学医学部附属病院
島根県：島根大学医学部附属病院
岡山県：岡山大学病院
川崎医科大学附属病院
岡山医療センター
倉敷中央病院
広島県：広島赤十字・原爆病院
山口県：山口大学医学部附属病院
徳島県：徳島大学病院
徳島赤十字病院
香川県：香川大学医学部附属病院
四国こどもとおとなの
医療センター
愛媛県：愛媛大学医学部附属病院
愛媛県立中央病院
松山赤十字病院
高知県：高知大学医学部附属病院
高知医療センター

拠点病院連携：兵庫県立こども病院

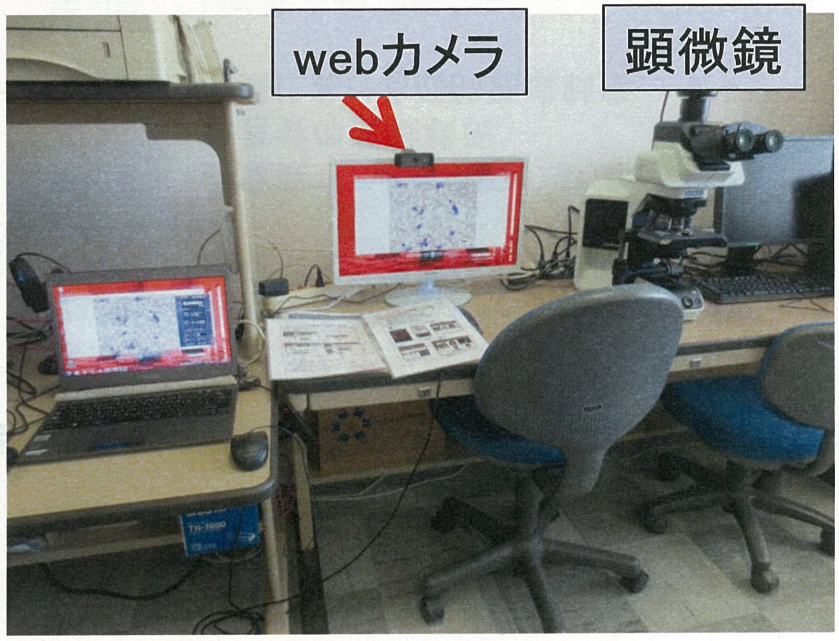
小児がん中国・四国ネットワーク テレビ会議

広島大学









ブロック内会議検討事項（第1回～第11回）

広島大学

第1回　小児がん中国・四国ネットワーク会議会則制定
7/22　テレビ会議システム運用申し合わせ
2013　地域計画書作成案

第2回　地域連携の現状把握，計画・目標作成
8/20　地域計画書作成
2013

第3回　各施設の現状報告
9/24　メーリングリスト作成
2013　神経芽腫治療情報交換

第4回　鎮痛鎮静薬使用アンケート調査
10/23　各県行政担当者の参画承認
2013　希少症例検討

第5回　難治性固形腫瘍（初発例）治療アンケート調査
11/27　ホームページ案
2013　希少症例検討
小児がん患者団体との連携

第6回　連絡協議会（於　広島大学病院）
1/11　中四国ブロックの連携体制
神経芽腫の治療
小児がん研究会

第7回　小児がん中央機関の指定
2/26　小児がん登録
2014　患者会との連携体制

第8回　兵庫県立こども病院の参加
3/26　患者会の活動状況
2014　各県における公的助成制度

第9回　MRI検査の実施体制
4/23　（実施時のマニュアル）
2014　症例検討

第10回　小児がん拠点病院連絡協議会の報告
5/25　専門医制度資格取得セミナー
2014　ブロック看護研修会案内

第11回　脳腫瘍，骨腫瘍等の治療アンケート調査
6/25　ブロック看護研修会案内
2014

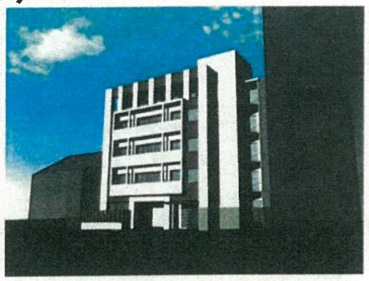
ブロック内整備と今後の予定

広島大学

1. 地域連携
   小児がん中国・四国ネットワークの設立と活動（月1回のテレビ会議，年1回の連絡協議会）
   ホームページの開設と各県の連携病院情報の提供：8月中にオープン
   小児がん患者団体との連携
     がんの子どもを守る会中四国支部連絡会の発足（年1回の定例会）
       第1回：2013年11月16～17日（広島）
       第2回：2014年10月11～12日（愛媛）　予定
   小児がん看護研修会：2014年12月開催予定（30名の参加希望）
   行政機関との連携：中四国がん対策所管課会議でネットワークへの参加承認（2013年10月22日）
                小児がん診療に関する広報，啓発，患者支援への取組み

2. 人材育成
     専門医制度資格取得セミナーの開催（学会主導による単位取得）
       第1回：2014年9月21日（於　岡山）
     小児がん研究会（年1回，連絡協議会と同時開催，2015年1月10日予定）
     小児血液フォーラム，小児白血病カンファレンス，小児がんセミナー　など

3. その他
     広島大学霞ファミリーハウスの建設（平成27年3月竣工予定）
       敷地面積：約213㎡
       施設：5階建て　宿泊施設：12室
       大学病院まで徒歩2分







小児がん拠点病院整備の進捗状況について

北海道ブロック

北海道大学病院

北海道ブロック
北海道大学病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携		緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍								その他				
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規診療を施した児童数	相談支援センター相談件数
(127) 192 207	(5) 6 11	(5) 2 6	(0) 1 0	(0) 0 3	(0) 0 0	(0) 2 2	(1) 3 1	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 2 3	(0) 0 0	(0) 0 0	(1) 1 1	(5) 8 5	(1) 0 0	(0) 1 1	(1) 1 0	(1) 0 0	(1) 0 1	(3) 2 0	(5) 15 26	(1) 2 4	(28) 44 61	(23) 25 41	(5) 7 16	(3) 1 3	288

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値、
　下段は平成２５年１月１日～１２月３１日の数値。

北海道ブロック
北海道大学病院

資料2

指定前後の変化

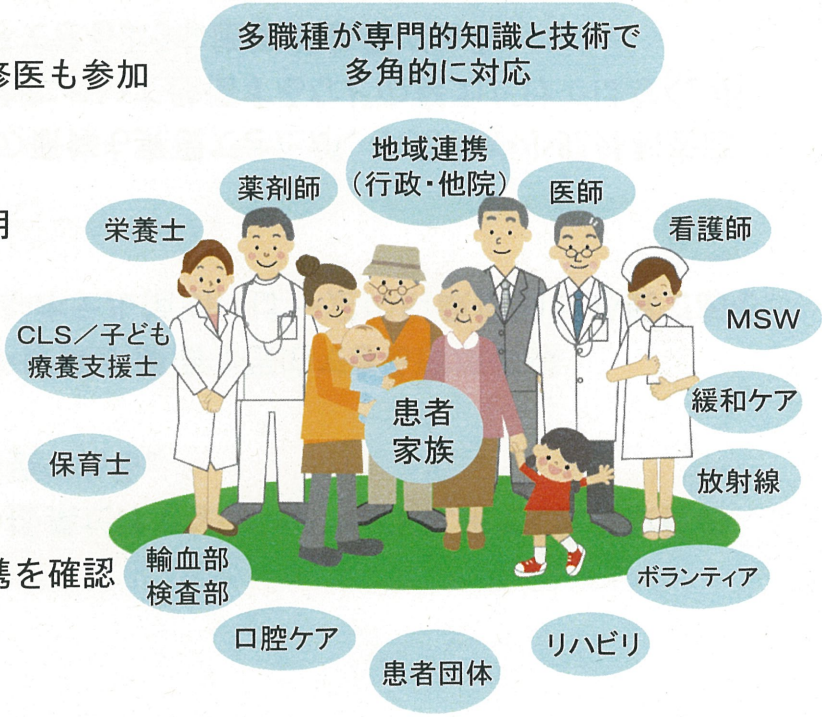
・進捗があった点

(1) **チームによる集学的治療の実施**
- キャンサーボードの定例化。緩和ケアチームや若手医師や研修医も参加
- 療育やプレパレーションなどの積極的な展開

(2) **再発・難治がんへの対応**
- 腫瘍センター内に小児がん部門が設置され、専任の教員を採用
- 小児造血幹細胞移植専用の無菌室が増設

(3) **病床確保の対応**
- 新規の症例はほぼ即日入院可能

(4) **思春期のがん患者への診療と長期フォローアップ**
- 小児がん診療に全病院を挙げて取り組む体制を構築
  （小児がん拠点病院推進事業会議が設立）
- 院内ワーキンググループが設置され小児と成人の診療科の連携を確認



(5) **他の小児がん診療病院との連携**
- 北海道全域（他大学病院を含む）から患者を受け入れ
- 定期的な研究会や症例検討会が開催

(6) **地域連携のための取り組み**
- 小児がん専門医だけでなく小児神経や内分泌専門医などの地域中核病院での出張外来の開設が進行
- 在宅医療機関と連携を強化

(7) **人材育成・交流、講演会開催**
- 小児がん勉強会、カンファレンス、講演会を定例化し、積極的な緩和ケアチームの参加

(8) **臨床研究への参加**
- JPLSGなどの多施設共同研究（従来通り）
- 小児がん拠点病院を対象とした臨床研究が開始される予定

(9) **行政（北海道）との連携**

H25年度は北海道の委託事業により北海道内の小児がん診療の実態調査を実施

北海道ブロック
北海道大学病院

資料2

指定前後の変化

・進捗が無かった点／改善点

(1) **臨時キャンサーボードシステムの構築**

(対策)→院内では、定期のキャンサーボードは構築されており、臨時キャンサーボードは随時開催されてはいたが、臨時キャンサーボードの開催体制はシステム化されていなかった。この点について腫瘍センターを中心にキャンサーボード開催体制のシステム化を整備中である。
地域とは連携のためのテレビ会議などを用いたシステム整備が望ましいが、費用の関係で実現は困難であり、それに代わる方法を検討している。

(2)**院内学級の整備、特に教員の増員**

(対策)→生徒数で教員数は決まるが、院内学級には教室での授業だけでなくベッドサイドに来てくれる教員の人数の上乗せが必要であり教育委員会との交渉が必要である。

(3)**ファミリーハウスの増設や近郊のホテルなどとの連携で患者・家族が廉価な宿泊できる環境整備**

(対策)→現在のファミリーハウスは常に満員であり、増設費用やホテル補助には一定の財政援助が必要である。

(4) **小児医療を目指す人材の確保**

(対策)→教育、研修のシステムは構築され、専門医の国内外の研修も実現できたが、小児科や小児外科を志望する若い研修医が増加していない。小児医療の魅力について発信するなどの努力だけではなく、小児の診療報酬の増額など小児医療が病院経営に寄与できるような施策が必要である。
小児看護専門看護師はまだ育成できていない。大学院進学予定、受験予定を含めて仕事との両立を図れるような職場環境を整える。また、小児専門看護師を採用するべく募集を行っている。

北海道ブロック
北海道大学病院

資料3

事業実績報告

病院名：北海道大学病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費　12百万円

- 小児がん医療従事者研修事業　6百万円
  - 第1回小児がん拠点病院研修会
  - 内視鏡外科手術トレーニングセット
  - 教育用図書費
  - 研修会用PC等
- 院内がん登録促進事業　1百万円
  - がん登録統計ソフト等
- がん相談支援事業　1百万円
  - 長期フォローアップノート印刷等
- プレイルーム運営事業　1百万円
  - おもちゃ，絵本，色紙等
- 入院患者家族支援事業　3百万円
  - ファミリーハウス委託料
  - 空気清浄機，炊飯器等

北海道ブロック
北海道大学病院

資料4

今後の整備スケジュール

(1)集学的治療及び標準的治療の提供
・キャンサーボードの充実化(多職種の参加を促進)
初期治療時
再発・難治例

長期フォローアップ（成人の診療科との協力）
AYA世代の治療・フォロー
精子・卵子保存のほか、卵巣保存の実施に向けて準備中

2014　2015　2016　2017

(2)地域連携
・地域の中核病院との連携推進
小児各分野の専門医による出張外来の充実化
成人診療科との連携強化



・新規治療や治験の推進
小児の陽子線治療に向けて審査中
小児がん関係新規薬剤・臨床研究の推進

2014　2015　2016　2017

北海道ブロック
北海道大学病院

今後の整備スケジュール

資料4

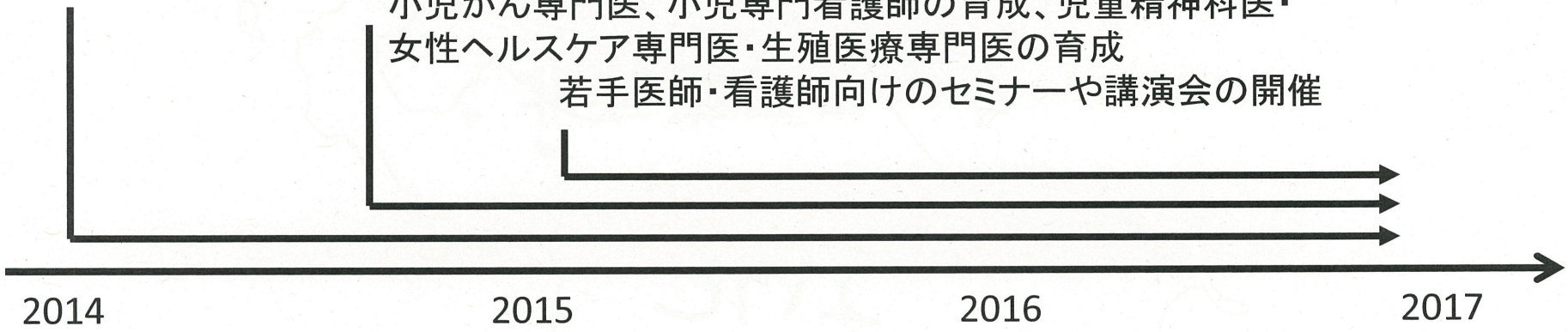
(3)人材確保、育成

勉強会・講演会の活性化（医師以外の職種の講師を増加させる）

外部講師による講演会開催

小児がん専門医、小児専門看護師の育成、児童精神科医・女性ヘルスケア専門医・生殖医療専門医の育成

若手医師・看護師向けのセミナーや講演会の開催

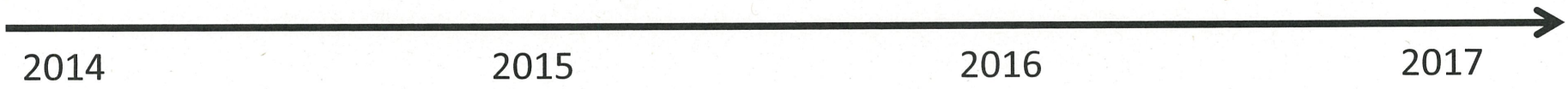


(4)患者・家族への相談/支援体制

小児がん専任の相談員として、がん相談支援室に社会福祉士を採用

小児がん患者・家族用情報パンフレットの作成

相談員の資質向上のため積極的な研修参加を促進



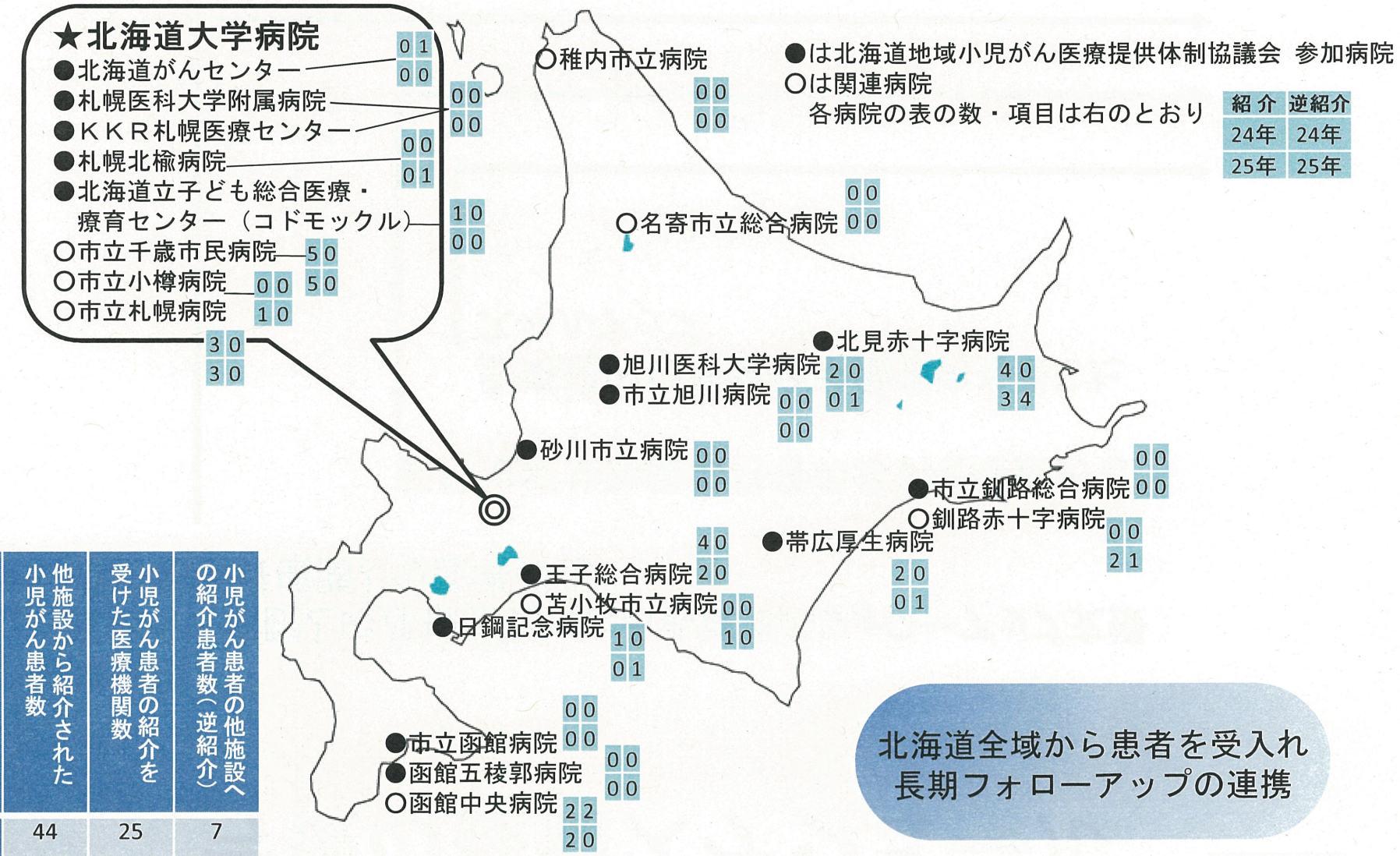
小児がん地域ブロック整備の進捗状況について



北海道ブロック

地域ブロックの概要

資料1



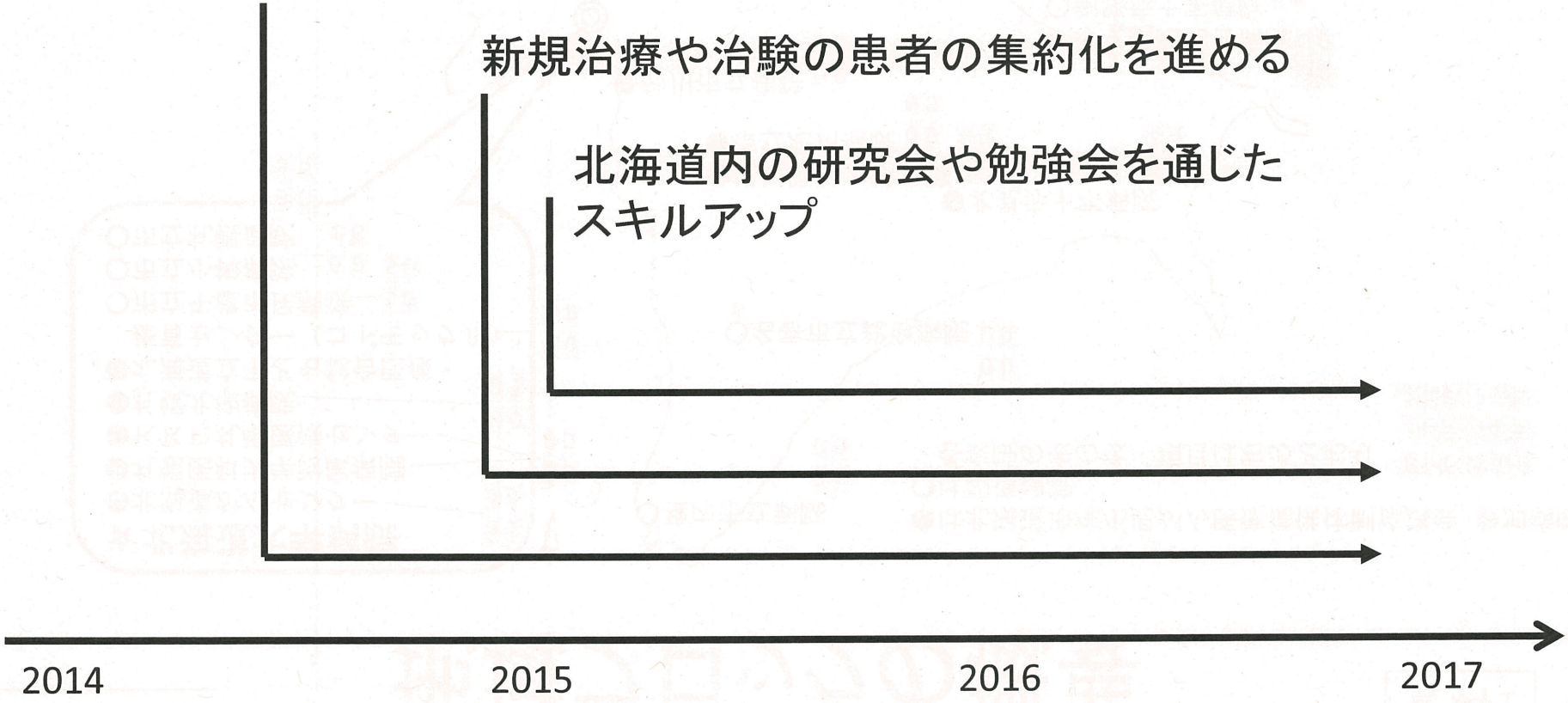
	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者数（逆紹介）
24年	44	25	7
25年	61	41	16

北海道ブロック

資料2

今後の整備スケジュール

(1)地域連携
道央圏と地域病院との連携強化による地域でのフォローアップ支援
地域の在宅医療機関との連携強化



北海道ブロック

資料2

今後の整備スケジュール

(2)人材育成

医療スタッフの学会参加および発表の促進

小児がん専門医、小児専門看護師の育成、診療情報管理士の育成

若手医師・看護師向けのセミナー・講演会の開催

2014　2015　2016　2017



(3)行政との連携

北海道における小児がん診療の実態等に関する調査結果取り纏め

北海道の支援を得て小児がん診療病院・地域中核病院との協議会を企画

北海道支援による研究会の開催を検討

2014　2015　2016　2017

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

東北ブロック

東北大学病院

平成26年7月14日

東北ブロック
東北大学病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																							地域連携		緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍									その他				
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療実施した小児患者数	相談支援センター相談件数
(150) 149 144	(6) 6 5	(2) 1 1	(0) 1 0	(0) 2 0	(0) 0 0	(6) 3 2	(0) 0 0	(0) 0 0	0) 0 0	(1) 1 1	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 1 0	(2) 3 1	(1) 1 0	(1) 2 0	(1) 0 3	(1) 5 1	(2) 3 1	(1) 3 3	(12) 15 11	(0) 0 1	(36) 47 30	(15) 19 20	(2) 5 4	(5) 1 3	83

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値（平成２３年１月～１２月）、
中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値（平成２４年１月～１２月）、
下段は平成２５年１月から１２月の数値（平成２５年１月～１２月）

東北ブロック
東北大学病院

指定前後の変化

資料2

- **進捗があった点**

１．東北大学病院がんセンター内に＜小児腫瘍センター＞を設立
当院全体の化学療法センター、放射線治療チーム、緩和ケアチーム、
院内がん登録室、がん診療相談室、成人診療科との連携体制を強化した(図1)。

２．小児医療センターでの入院環境の整備
１）当院東西５階は小児医療センターの入院設備として機能している。
各室に付き添い者用ベッド(図2)を購入し、入院生活環境の改善を図った。
２）今年度に病棟内セミクリーン域の設置とプレイルーム増設、
セキュリティーシステムの導入、個室化を推進するための準備を行った。

３．脳脊髄腫瘍の診療体制の強化
これまでの脳神経外科中心の診療体制から、小児科も参画する共同診療体制
となった。月１回の定期的な合同カンファレンスの開催を開始した。

４．新規治療医師主導型治験への参加
難治性神経芽腫に対する新規抗体療法の治験実施施設となった。

５．臨床心理士の病院雇用と保育士の増員
臨床心理士３名を病院雇用とし、保育士を２名増員して計６名とし、入院生活支援の充実を図った。

６．長期フォローアップ外来の充実
医師、専属看護師、臨床心理士による週２回の長期フォローアップ外来体制とした。
長期フォローアッププログラム、問診票、移植後患者退院後の生活上の注意点（パンフレット）の作成を行った。

７．緩和ケアチームとの連携強化
東北大学病院がんセンター内で連携体制が強化され、終末期の早い段階から介入してもらうことができた。

８．遠隔医療設備の充実
宮城県立こども病院とのインターネットカンファレンス設備(図3)を導入し、カンファレンスを施行した。

９．東北小児白血病セミナーの開催
医師、看護師、臨床心理士、臨床検査技師の参加による勉強会の開催を開始した。

１０．病院ホームページへの掲載準備、情報提供
病院ホームページに小児がん拠点病院および小児腫瘍センターに関する掲載の
準備を進めている(図4)。
ＮＨＫ仙台放送局（平成26年6月9日放映）とＮＨＫ全国放映(平成26年6月30日)
を通じて、東北大学病院の取組みに関する情報提供を行った。

図1

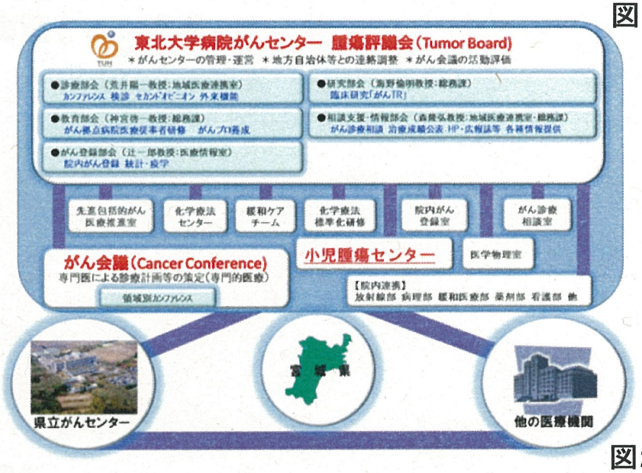


図2

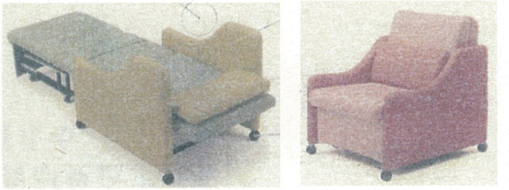


図3

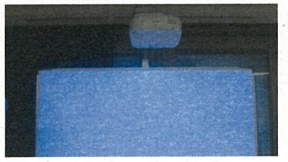


図4



東北ブロック
東北大学病院

資料2

指定前後の変化

• 進捗が無かった点（理由と対応策）

１．症例数の増加

小児がん初発症例発生数による。
病棟セミクリーン域工事に伴い一定期間の入院患者数制限が必要になる。
他県からの紹介症例数がまだ少ない。
＞＞　東北大学病院の小児がん拠点病院後の進捗を周知する。
　　東北地区全体として、小児がん診療病院との連携を強化する必要がある。

２．小児がん専門医の増員

これまで大学院生、海外留学、国内留学の医師が多かった。
＞＞　上記を修了し、小児血液･がん学会専門医資格を満たす医師が増えており、今後増員が見込まれる。
　　院内および東北ブロックにおける小児がん研修会を定期的に開催し、研修体制を整える。

３．ＣＬＳの新規雇用

雇用の予算確保および他職種者との業務連携体制が必要である。
＞＞　ＣＬＳと他職種との業務の住み分けを明確にした上で、募集を継続する。

４．患者家族の病院内宿泊施設の設置

設置･運営の予算確保および敷地確保が困難である。
＞＞　現存のラッコハウスとせんだいハウスとの連携を強化する。
　　Social Workerを通じて、入院の御家族への紹介を継続する。

５．ＡＹＡ世代への支援体制整備

診断治療体制は整っているが、就学支援体制の構築が難しい。
＞＞　行政や私立高校への働きかけを行う。

６．在宅医療体制の整備

小児がんのみならず、小児在宅医療体制自体が途上にある。
＞＞　医師以外の職種との在宅医療勉強会を予定しており、体制の必要性を強調していきたい。

東北ブロック
東北大学病院

資料3

事業実績報告

病院名：東北大学病院

平成２５年度小児がん拠点病院機能強化事業費　１３．８３百万円

・小児がん医療従事者研修事業　０．８８百万円
小児がん総合カンファレンスを週１回開催
宮城県立こども病院合同カンファレンスを月１回開催

・院内がん登録促進事業　１．４５百万円
院内のがん登録業務の品質管理と精度向上に努めた。

・がん相談支援事業　３．４１百万円
臨床心理士により子供が心に傷を負うことのないように
心理的支援を行った。

・プレイルーム運営事業　４．３２百万円
保育士による支援と不足あるいは老朽化していた物品
等を購入し、快適性の向上に努めた。

・入院患者家族支援事業　３．７７百万円
病棟内家族待機室の設備の充実と簡易ベッド等を購入し、
付添家族の生活環境の向上に努めた。

東北ブロック
東北大学病院

今後の整備スケジュール

資料4

・集学的治療及び標準的治療の提供

- 小児腫瘍センターの充実、機能化
- 病棟セミクリーン域と新規プレイルーム設置
- 他科合同および小児がん総合カンファレンスの継続
- 難治性神経芽腫に対する医師主導型治験（東北大学病院臨床研究推進センター）
- 緩和医療チームとの連携強化
- 長期フォローアップ体制の充実
- AYA世代への対応改善

・地域連携

- 遠隔医療体制の充実
- 小児がんに関する定期的な勉強会の開催
- 小児がん在宅医療への取り組み
- 乳児白血病に関する東北メディカルメガバンク機構との共同研究

・その他

- 病院HPに小児がん拠点病院サイトの開設・更新、マスメディアによる情報発信

2014.7　2015.4　2016.4　2017.8

小児がん地域ブロック整備の進捗状況について

東北ブロック

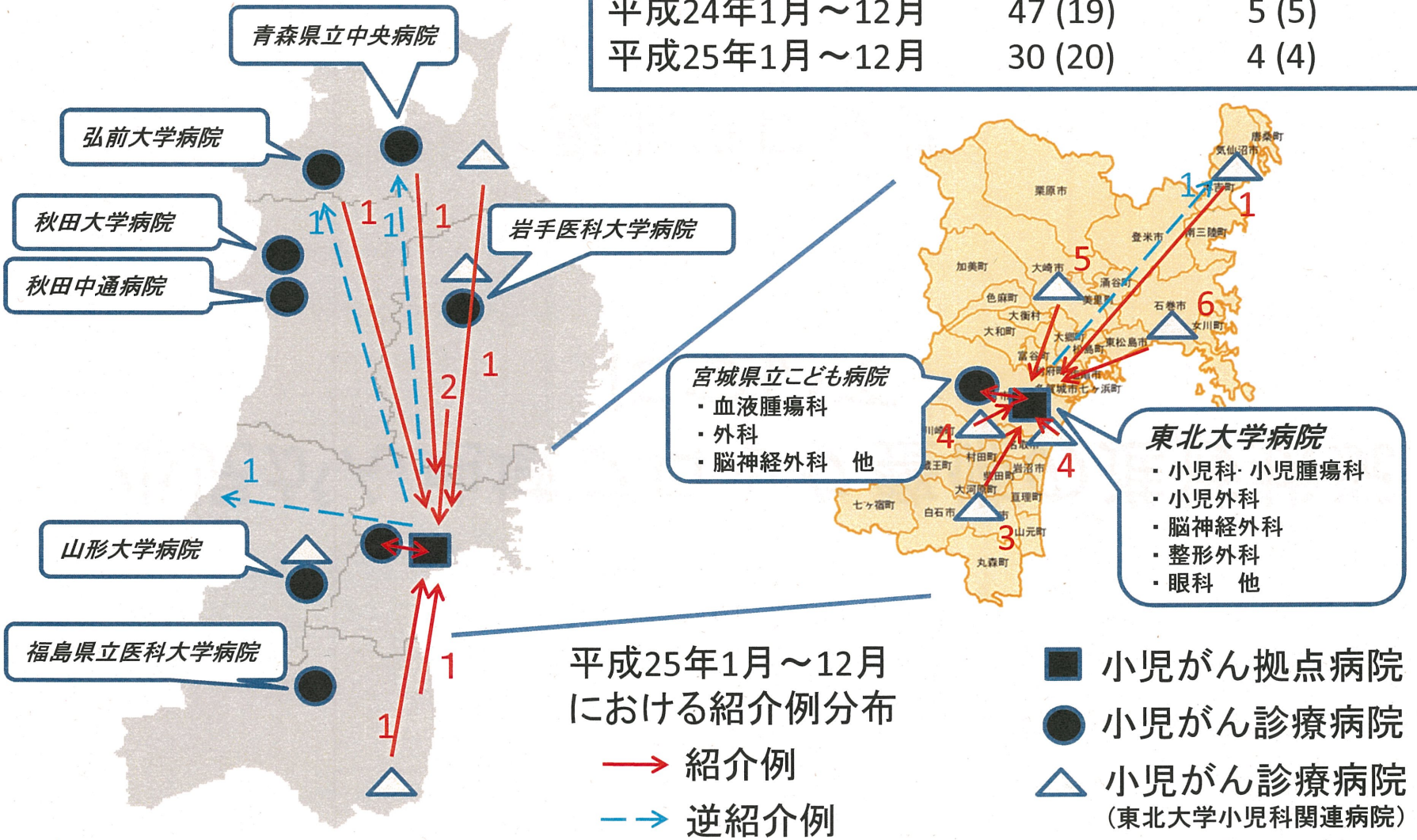
平成26年7月14日

東北ブロック

地域ブロックの概要

資料1

関連施設からの	患者紹介数 (医療機関数)	逆紹介数 (医療機関数)
平成23年1月～12月	36 (15)	2 (2)
平成24年1月～12月	47 (19)	5 (5)
平成25年1月～12月	30 (20)	4 (4)



東北ブロック

資料2

今後の整備スケジュール

・地域連携

東北地区小児がん医療提供体制協議会の定期的開催

小児がん診療病院間の連携強化

長期フォローアップ体制の連携強化

講演会や会合を通じた患者会との交流

・人材育成

小児がん専門医の育成・人材育成

東北がんプロフェッショナル養成推進プランによる勉強会の開催

日本小児血液・がん学会後援による小児がんに関する勉強会の開催

小児がん診療スタッフのための定期的な小児がん・白血病セミナーの開催

東北小児がん研究会

東北小児白血病研究会、東北小児白血病セミナー

・その他

遠隔医療体制設備の充実

2014.7　2015.4　2016.4　2017.8

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

九州・沖縄ブロック

九州大学病院

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

診療実績

資料1

年間入院患者の状況	診療実績																							地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍									その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数
(189) 251 240	(13) 10 20	(4) 6 5	(0) 0 0	(1) 0 0	(0) 0 4	(3) 1 3	(1) 0 0	(1) 0 0	(5) 0 0	(6) 9 3	(0) 1 0	(0) 1 0	(0) 1 4	(3) 7 7	(3) 3 5	(6) 4 0	(0) 6 1	(4) 3 4	(4) 7 2	(3) 7 8	(23) 20 9	(1) 3 1	(70) 83 74	(50) 55 52	(9) 12 8	(36) 40 36	0 0 0

・上段（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書（平成２３年１～１２月）の数値、
中段は平成２５年１２月末提出の現況報告（平成２４年１～１２月）の数値、
下段は平成２５年１～１２月の実績

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

資料2

指定前後の変化

• 進捗があった点

チャイルド･ライフ･スペシャリスト（ＣＬＳ）２名配置

平成26年1月チャイルド･ライフ･スペシャリスト2名雇用したことにより、小児医療センターにおける子どもへの処置・検査中の精神的サポートやプリパレーション（心の準備のサポート）等を行うことが出来るようになり、子どもが主体的に治療に臨める環境づくりが強化された。
また、多職種との連携強化のため、チャイルド･ライフ･スペシャリストという職種への理解や、子どもへの具体的な対応の仕方について積極的に講義を行っている。

長期フォローアップにおけるトランジショナルケア外来開設

これまでも小児科及び小児外科による小児がん長期フォローアップシステムがあり、治療終了後の患者に対して定期的にフォローアップを継続しているが、平成26年度に大学病院の診療部門としては、わが国初の開設となるトランジショナルケア外来を開設した。
トランジショナルケア外来では、成人期に達した小児慢性疾患の患者さんが成人診療科へ円滑に移行するためのサポートを実施する。
これにより、今まで行われていた長期フォローアップに関して、より明確に患者さんに認識していただける状況が整備された。

行政との連携

①福岡県庁ホームページ「小児がん」の項目において、本院の小児がん拠点リーフレットや九州･沖縄地域小児がん医療提供体制組織図を掲載している。また、同リーフレットは小児がん拠点病院14施設及び全国の各県庁がん対策担当へ配布済である。
②福岡県がん対策推進協議会の構成員として、全国に先駆けて「福岡県がん対策アクションプラン」に小児がん対策の充実のための取組を定めた。

テレビ会議システムの構築

テレビ会議のシステムを、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会を構成するすべての施設に整備したことで、九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議、更には各施設で行われる小児がんに関する研修カンファレンス、症例検討会などをテレビ会議で開催することが可能となった。

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

資料2

指定前後の変化

• 進捗が無かった点

相談支援体制

相談支援の体制を構築するため、相談員として配置予定であるチャイルド･ライフ・スペシャリストの国立がん研究センター主催「相談員研修」修了後、速やかに相談支援の窓口を設置できるよう以下の準備を行う。
①小児がん相談支援窓口の専用回線（ホットライン）を整備する。
②がん相談支援室と連携し、小児がんに関わる相談支援の体制を構築する。
③相談者・電話相談者の状況に応じて臨機応変に対応できるよう、小児がん治療に関する情報収集を行う。

長期滞在施設

本院の近隣に設置されている小児がんを含む小児入院患者の家族向け宿泊施設について、これらの整備及び運営を促進していくため、「小児がん拠点病院機能強化事業」の「入院患者家族支援事業」により小児入院患者の宿泊費用の一部を軽減するための補助を実施できるよう、宿泊利用者数の把握、稼働率の調査を行う。

院内がん登録

院内がん登録事業を進めるあたって、以下の実施が必要である。
①小児がん院内がん登録担当者の「院内がん登録実務者研修」受講。
②現在の学会ベースや国の事業で行われている複数の登録システムを整理し、院内がん登録システムとの連携が可能な状況とする。

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

事業実績報告

資料3

●実績報告に記載の項目

病院名：九州大学病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費		23百万円
・小児がん医療従事者研修事業	……	6百万円
・院内がん登録促進事業	……	6百万円
・がん相談支援事業	……	3百万円
・プレイルーム運営事業	……	8百万円
・入院患者家族支援事業	……	0百万円

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

今後の整備スケジュール

資料4

【集学的治療及び標準的治療の提供】

（1）チームによる実施体制

本院は、主に小児医療センターにおいて、医師（小児科、小児外科、放射線科、整形外科、脳神経外科、眼科、産婦人科、泌尿器科、精神科神経科、心療内科、麻酔科及び小児歯科・スペシャルニーズ歯科等）・看護師・薬剤師・放射線技師等のスタッフによる集学的治療を施行している。平成26年の『チャイルド・ライフ・スペシャリスト』の採用により、小児がん患者及び家族の心のケアに関して更なる充実を図っていく計画である。

（2）専門的な知識及び技能を有する医療従事者及び療養を支援する者の確保及び配置

保育士2名、チャイルド・ライフ・スペシャリスト2名を配置しているが、今後も小児がん拠点病院機能強化事業費にて継続雇用すると共に、九州・沖縄地域の協力病院との連携の中で、小児がん拠点病院のスタッフとしての役割を整理していく予定である。

（3）再発がん及び難治がんへの対応

本院は小児がん患者の家族の不安や疑問に適切に対応すると共に、療養上の相談やセカンドオピニオンの依頼に対し、その分野の専門医師が対応してきた実績が多くある。今後も、再発がん及び難治がんへの対応として、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、その他スタッフによる小児がんに関する相談支援窓口の設置やセカンドオピニオンなどを充実させ、必要があれば転院を受け入れる。

（4）患者が増えた場合の病床確保等の対応方法

小児医療センターには、一般病床が52床有しており、これに加えて小児がんに限らず他科の小児患者が入院可能な共通病床を23床有している。今後小児がん患者が増加した場合、同共通病床を優先的に使用させることが可能である。

（5）思春期のがん患者への診療体制

小児医療センターにおいては、がん患者は基本的に高校生に至るまで診療している。
①小児慢性特定疾患などの制度の適応
②同年代の患者とのコミュニケーション
③患者年齢と理解度を考慮した医療者による説明
④心のサポート（精神科神経科、心療内科及び臨床心理士と連携）
⑤勉学のサポート体制・復学支援
それ以外に、高校生及び大学生の勉学のための部屋の確保、また中学生を含む思春期のがん患者同士のコミュニケーションの充実のための、専用スペース確保を計画している。

（6）緩和ケアチームによる緩和ケアの実施体制

小児医療センターにおいて「医師に対する緩和ケア研修会」及び「小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」の終了者より構成された小児専門の小児がん緩和ケアチームが、小児がん患者に対し日常的に緩和ケアを実施している。平成26年度にはメディカルスタッフの養成・教育に力を入れ、更にチャイルド・ライフ・スペシャリストの参画により体制を強化していく。

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

今後の整備スケジュール

資料4

【地域連携】

（1）小児がん診療病院との役割分担

平成26年度も小児がんに対する最適な治療の提供や、九州・沖縄地域における小児がん診療病院（図）からの相談、小児がんに携わるスタッフの養成するための研修を実施していく。

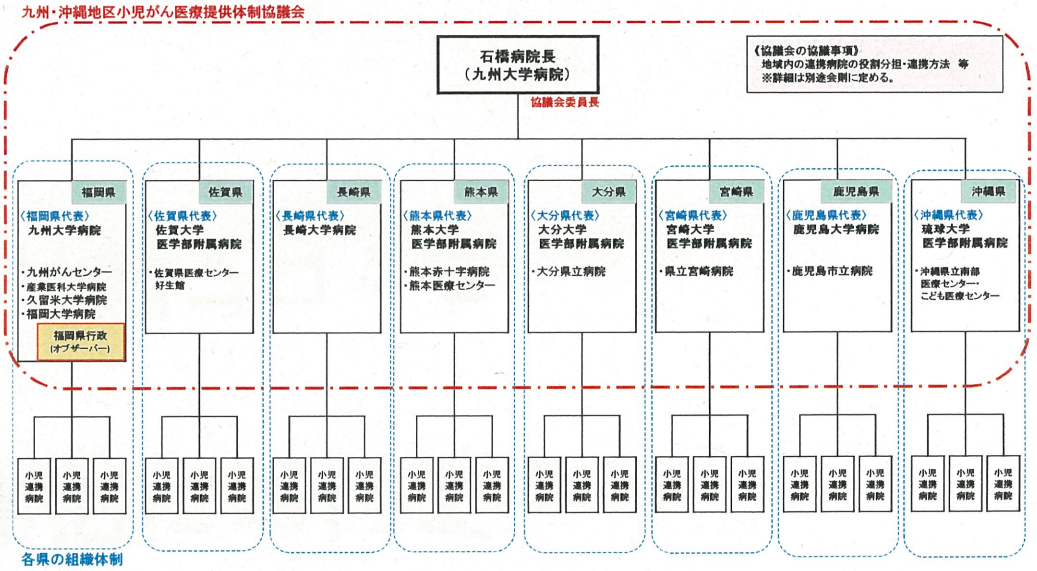
（2）患者を受け入れる主な地域

九州・沖縄地域における各県の小児がん診療病院と連携し、患者を受け入れる体制として九州・沖縄地域小児がん医療提供体制（図）を整備。平成26年度のテレビ会議システム利用開始に伴い、平成27年に向けて既存の連携施設では網羅できていない離島等とのネットワークを構築していく。

（3）自施設では十分に対応できない疾患及び病態への対応

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制に基づき、本院の小児医療センターを中心として、九州・沖縄地域の医療機関と連携し対応する。本院では対応できず、他の地域における小児がん拠点病院に治療を依頼しなければならない場合は、速やかに相談・依頼する。

九州・沖縄地域小児がん医療提供体制（小児がん診療病院）



（4）長期フォーローアップの方法及び晩期合併症への対応

九州大学病院においては平成26年度より『トランジショナルケア外来』を開設した。今まで行われていた長期フォローアップに関してより明確に診療部署の開設ということで患者さんに認識して頂ける状況を整備した。
小児科、小児外科、他科におけるフォローアップ体制は今後も継続するが、それぞれに存在するフォローアップシステムの統合化を図り、情報共有をより緊密にする取り組みを現在行っている。院内での統合化がある程度達成された後は同取り組みを九州・沖縄地域の小児がん診療病院ともフォローアップシステムの体制を確認し、連携可能な形としていく。

（5）行政との連携

福岡県内において定められた「福岡県がん対策アクションプラン」を軸に、九州・沖縄地域における小児がん対策を推進する。

【その他】

（1）小児がんに関する研修会の実施予定

九州地区固形腫瘍悪性腫瘍研究会
・対象者：医師、看護師、その他小児がん治療に従事するメディカルスタッフ
・参加人数：約100人　　・開催時期：平成27年3月　　・研修会内容：小児固形腫瘍に関する一般演題及び特別講演等

（2）相談支援の体制、相談支援の広報及び小児がん患者団体との連携

平成26年度中に小児がん拠点病院事務局に小児がん相談支援窓口を設置し、養成・教育を受けたチャイルド・ライフ・スペシャリストを相談員として配置。相談者の状況に応じて臨機応変に対応する。相談支援の広報においては、九州・沖縄地域における小児がん診療病院や各県の行政機関等と連携し、広報を行う。小児がん患者団体とは今後も定期的に交流会や講演会を開催する。

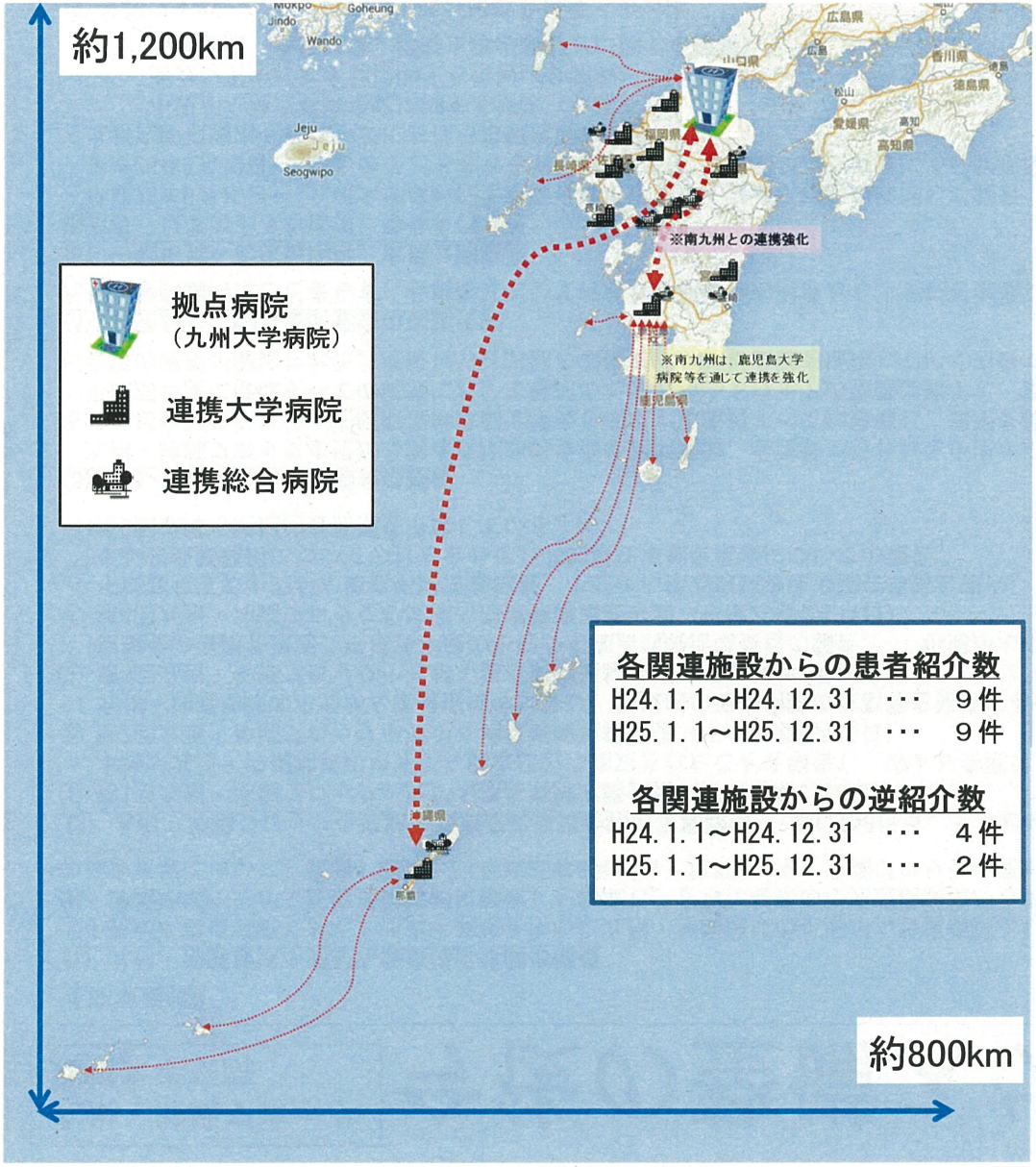
小児がん地域ブロック整備の進捗状況について

九州・沖縄ブロック

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

地域ブロックの概要

資料1



九州・沖縄地域における小児がん診療病院

県　名	病　院　名
福岡県	独立行政法人国立病院機構九州がんセンター
	産業医科大学病院
	久留米大学病院
	福岡大学病院
佐賀県	佐賀大学医学部附属病院
	佐賀県立病院好生館医療センター
長崎県	長崎大学病院
熊本県	熊本大学医学部附属病院
	熊本赤十字病院
	国立病院機構熊本医療センター
大分県	大分大学医学部附属病院
	大分県立病院
宮崎県	宮崎大学医学部附属病院
	宮崎県立宮崎病院
鹿児島県	鹿児島大学病院
	鹿児島市立病院
沖縄県	琉球大学医学部附属病院
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

今後の整備スケジュール

資料2

【地域連携】

(1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制の構築

小児がん拠点病院である九州大学病院を中心に九州・沖縄地域の小児がん診療病院として各県にある大学病院と総合病院の委員から構成される「九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会」を結成し、さらに各県の小児連携病院から支持される医療連携体制を構築した(「小児がん拠点病院整備の進捗状況について」資料4 図)。(平成25年6月15日:第2回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議)

(2) 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議の定期開催・・・年に2回行う。テレビ会議システムを利用して行う。

① 第1回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議(平成25年3月9日)
本院が九州・沖縄地域の小児がん拠点病院に指定されたことを報告し、Ｗｅｂ会議システムを導入することについて、関係医療機関へ説明した。

② 第2回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議(平成25年6月15日)
九州・沖縄地域の小児がん医療提供体制及び、地域内の連携病院の役割等を協議する協議会の設置・構成について承認を得た。

③ 第3回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議(平成26年2月22日)
協議会の会則を確認。平成25年度の小児がん拠点病院活動要旨の報告。　小児がん中央機関の指定、JCCG設立準備委員会についての報告。

④ 第4回九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議(平成26年6月14日)
平成26年度の小児がん拠点病院活動報告。小児がん拠点病院連絡協議会準備会報告。
テレビ会議運用についての打ち合わせ。JCCG設立準備委員会についての報告。
〈第5回以降も定期的な開催を予定している。〉

(3) テレビ会議による協議会の開催

九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議の定期開催、各施設で行われる小児がんに関連する研修カンファレンス、症例検討会などに運用できるテレビ会議のシステムを医療提供体制協議会を構成する施設すべてに整備し、運用を開始する。

平成25年度にほぼすべての施設において運用のためのハードウェアの整備は終了し、第4回拠点病院連絡会議の終了後、平成26年6月23日より、テレビ会議の運用が開始された。今後1か月に1回の頻度で、テレビ会議を活用していく方針である。

(4) 小児がんに関する研修会の実施予定

九州大学病院内にとどまらず、各施設において行われる研修会も対象とし、テレビ会議システムを利用した実施を計画している。

(5) 一般市民への広報活動、市民公開講座

指定後、以下のような広報、啓発を行った。
・平成25年5月15日・・・九州大学病院記者懇談会にて小児がん拠点病院指定に関して報告
・平成25年5月19日・・・がんの子どもを守る会 九州北支部 第38回がん交流会にて公開講座
・九州大学病院ホームページにおける広報活動の充実
　小児がん拠点病院指定に関する情報(公開済)
　セカンドオピニオンに関する情報(公開済)
　新規治療(臨床試験、医師主導治験などに関する情報)

(6)長期フォローアップの方法、及び晩期合併症への対応

フォローアップに関して

九州大学病院においては平成26年度より小児医療センターとしてトランジション外来の標榜を開始した。今まで行われていた長期フォローアップに関してより明確に診療部署の開設ということで患者さんに認識していただける状況を整備した。

九州・沖縄ブロック
九州大学病院

今後の整備スケジュール

資料2

小児科、小児外科、他科におけるフォローアップ体制は今後も継続するが、それぞれに存在するフォローアップシステムの統合化を図り、情報共有をより緊密にする取り組みを現在行っている。九大病院内での統合化がある程度達成された後は同取り組みを九州・沖縄地域の小児がん診療病院ともフォローアップシステムの体制を確認し、連携可能な形としていく。

(7) 小児がん登録事業に関して

現在、小児がん登録は院内がん登録、学会基盤の小児がん登録など複数の小児がん登録事業があるため、非常に複雑化している。その中で本院は歴史的に九州・沖縄地域のセンター的役割を担ってきた経緯がある。複雑化している原因のひとつとして、担当部署が各病院によって異なることが挙げられるため、今後5年以内に担当窓口を九州・沖縄地域の小児がん診療病院の事務担当部署に統一し、九州大学病院小児がん拠点病院事務局が取りまとめを行い、今後の登録一元化に関しての方向付けを行う。

(8)行政との連携

福岡県内においては、福岡県がん対策推進協議会及び福岡県がん診療連携協議会等を通じて、本院を中心とした地域の医療機関との連携協力体制の構築を行う。また、九州・沖縄地域内における福岡県外の行政機関へは、各県の連携大学病院等を通じ、連携を深める計画である。

【人材育成】

(1)小児がんに関する研修の実施予定

① 九州山口小児血液・腫瘍研究会
・対象者：医師、看護師、その他小児がん治療に従事するメディカルスタッフ
・開催時期：毎年1回、6月頃に開催予定。
・九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議も本研究会開催に合わせて行い、参加が困難な地域についてはテレビ会議システムを利用する。
・研修会内容：小児血液・腫瘍に関する一般演題、教育講演及び特別講演等

② 九州地区小児固形悪性腫瘍研究会
・対象者：医師、看護師、その他小児がん治療に従事するメディカルスタッフ
・開催時期：毎年1回、2月または3月に開催
・九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院連絡会議も本研究会開催に合わせて行い、参加が困難な地域についてはテレビ会議システムを利用する。
・研修会内容：小児固形腫瘍に関する一般演題及び特別講演等

③九州大学病院がんセンター主催の医療従事者研修会
・対象者：医師、看護師、その他がん医療に従事するメディカルスタッフ
・年１回程度開催予定
・研修会内容：口腔ケアを中心とした緩和ケア（予定）

④ その他（予定）
本院のがんセンターと連携し、随時、小児がんに関する連携医療機関の医師・メディカルスタッフ等への研修を実施する。

(2)拠点病院間及び拠点病院と小児がん診療病院等との小児がん医療従事者の人材交流

① 九州大学病院では、小児がん診療医師育成プログラムを実施している。
本プログラムによる小児がん診療医師の育成を継続的に行うことに加え、研修を受けた医師が、九州・沖縄ブロックの小児がん診療病院で小児がん診療に係わる医療循環を形成していく。今後、実施に向けての話し合いを進める。

② 研究会・カンファレンス・勉強会を含めた育成プログラムも定期的に開催している。本プログラムは、本院の関係者以外の全ての小児がん診療病院の関係者に門戸は開かれている。当院のみのプログラムだけではなく、テレビ会議に参加が可能な施設における育成プログラムも可能なものは積極的に取り入れていくための話し合いを進める。

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

東海・北陸ブロック

三重大学医学部附属病院

東海・北陸ブロック
三重大学医学部附属病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																						地域連携		緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍												固形腫瘍									その他				
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療実施した患者数	相談支援センター相談件数
(33) 76 114	(7) 12 6	(1) 2 1	(0) 0 0	(1) 0 0	(1) 1 0	(1) 2 4	(0) 1 0	(0) 0 1	(0) 1 1	(1) 2 0	(0) 0 0	(0) 0 0	(2) 0 0	(3) 1 2	(0) 0 0	(0) 0 3	(0) 1 2	(4) 2 7	(2) 1 2	(1) 1 1	(4) 5 9	(1) 3 0	(28) 39 39	(16) 30 21	(6) 11 10	(3) 3	73

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、下段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値

東海・北陸ブロック
三重大学医学部附属病院

指定前後の変化

資料2

• 進捗があった点

（ア）集学的治療及び標準的治療の提供

① 医療福祉相談支援センター内にあった「小児在宅医療支援部」を、平成25年9月に「小児トータルケアセンター」として改組・設置し、現在、医師２名、看護師１名、臨床心理士１名、ＭＳＷ１名、事務員１名で活動を開始した。



② 小児トータルケアセンターが主催した研究会等

●「三重県小児在宅研究会」の開催　＜４回＞

【対象者】：医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャル・ワーカー、行政担当者、保健師、教員、相談員、事務員、学生

開催日（参加者数）

１．平成25年9月22日（124名）　２．平成25年12月22日（106名）

３．平成26年3月23日（142名）　４．平成26年6月29日

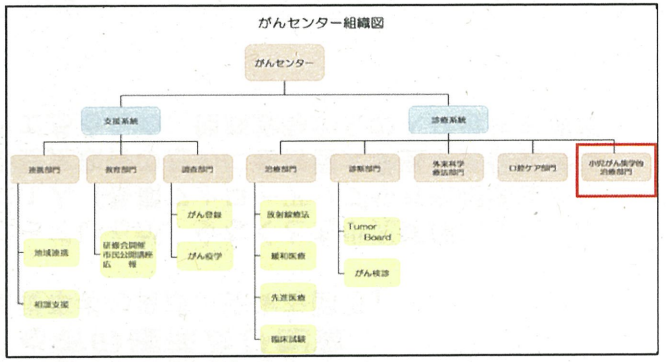
●「小児がん緩和研修会」の開催　＜３回＞

【対象者】：医師、看護師、緩和ケアチーム及び小児トータルケアセンタースタッフ

開催日（参加者数）

１．平成２５年１０月３１日（25名）　２．平成２５年１２月１０日（30名）

３．平成２５年１２月１７日（15名）



③ 平成２６年６月、本院がんセンター内に各診療科横断的な手術療法、放射線療法及び化学療法を組み合わせた集学的治療と緩和ケア治療を行うための「小児がん集学的治療部門」を組織した。今後は診療連携体制を強化し、症例に応じた専門医療チームで、組織的な治療を充実させていく。

④ 小児病棟においては、ＣＬＳ1名、保育士2名の増員を行い、ＣＬＳ2名・保育士3名合計5名の体制とし、患児の療養支援体制が充実した。

（イ）地域連携

① JPLSG造血器腫瘍免疫診断センターとして平成25年および26年の1年間にそれぞれ237件および339件の新規白血病、悪性リンパ腫の診断を行った。また、再発リスクの診断として微少残存腫瘍の解析についても平成25年および26年の１年間でそれぞれ340検体および890検体の解析を行った。

（ウ）その他

① 小児がん研修プログラムへの小児がん診療医師の受入（平成２４年～平成２５年）

・宮崎大学から１年間：１名　・豊橋市民病院から２年間：１名　・岐阜市民病院から３ヶ月：１名

② 本院小児科に入院した小児がん経験者の会「ひとと樹」が結成され、情報交換会を定期的に開催するほか、平成25年度は小児がんキャンプへもピアサポーターとして参加し、相談会を開催して頂いた。

③ 本院臨床研究開発センターに専任の教授（H26年1月）及び講師（H25年1月）を配置することにより基盤整備を行った。

東海・北陸ブロック
三重大学医学部附属病院

資料2

指定前後の変化

- 進捗が無かった点

（ア）集学的治療及び標準的治療の提供

●専門的な知識及び技能を有する医療従事者及び要領を支援する者の確保及び配置

「看護師においては小児看護専門看護師等の専門的な知識、技能を有する医療従事者の育成、充実を図る」

・小児看護専門看護師の育成、充実が図れていない。

→ 【改善】現在は小児トータルケアセンターに１人の配置となっているが、少なくとも小児病棟に１人（小児がんのケアモデルになれる人材）、小児科外来に１人（長期フォローアップや外来相談担当）の配置が望ましい。現在１名、小児看護専門看護師認定取得のために名古屋大学医学部保健学科修士課程に在籍しているが、終了は平成２８年３月であるため、他施設等からの人材確保も積極的に取り組み、早期に充実が図れるよう努める。

●思春期のがん患者への診療体制

「小児病棟内に思春期のがん患者のためのティーンエイジルームを確保」

・ティーンエイジルームが確保できていない。

→ 【改善】高校生や大学生が、病室とは異なる空間で自学自習や読書をしたり、同世代で談話ができる部屋を整備し、療養支援体制を充実させることの必要性を強く認識している。病棟内の関係診療科との調整を図り、体制の整備を進める。

（イ）地域連携

●患者を受け入れる主な地域

「他県医療機関では十分な対応ができない難治性の疾患の診断、治療は、小児がん拠点病院が中心となってコンサルテーションや患児の受入について責任を持って対応する。」

・コンサルテーションの環境整備が不十分。

→ 【改善】平成25年度の、電話やメールによる医療関係者からの診断・治療に関するコンサルテーションの相談は21件にとどまった。今後は、本院ホームページ上に小児がん拠点病院のバナーを作成し、医療関係者だけでなく患者家族もセカンドオピニオン等について相談しやすい体制を整える。

東海・北陸ブロック
三重大学医学部附属病院

事業実績報告

資料3

病院名：三重大学医学部附属病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費　　13．3百万円

・小児がん医療従事者研修事業　　1．0百万円
　……研修会講師報償費　他
・院内がん登録促進事業　　0百万円
　……
・がん相談支援事業　　3．2百万円
　……人件費（がん相談従事者）他
・プレイルーム運営事業　　9．1百万円
　……人件費（CLS他）
・入院患者家族支援事業　　0百万円
　……

東海・北陸ブロック
三重大学医学部附属病院

資料4

今後の整備スケジュール

(ア)集学的治療及び標準的治療の提供

1. 新外来棟建設 ・・・平成27年5月7日開院予定
   (1)外来通院患児が不安なく治療に専念できる診療環境整備
      ① 外来化学療法部の中に、小児専用の診察及び治療のためのスペースを整備する。
      ② 小児科外来の診察室を現病院より2室増室する他、プレイルームを整備する。
   (2)小児トータルケアセンターの配置エリア新設
      ① スタッフを集約配置し、効率的・機能的な運用を図る。

2. 小児がん集学的治療部門の活動を開始
   小児がん集学的治療部門の活動においては医師だけでなく、多職種が参加し、ケースカンファレンス、Tumor Boardの活動を行っていく。このほか、講演会・研修会も開催していくが、これらには医師のほか、看護師、薬剤師、臨床心理士、保育士、CLS、MSWなど、小児がんに関わる全ての職種が参加できるものにする。

(イ)地域連携

1. セカンドオピニオン等、相談しやすい体制作り
   本院ホームページ上に、本院が小児がん拠点病院のバナーを作成し、そこからアクセスすることで医療関係者からの診断・治療に関するコンサルテーションはもとより、患者家族もセカンドオピニオン等について相談しやすい支援体制を整える。

(ウ)その他

1. 新外来棟建設 ・・・平成27年5月7日開院予定
   (1)院内学級の充実
      ① 専用の相談室、トイレを備え、小児病棟から直接9mの距離に位置し、患児にとって利便性に優れた新しい院内教育施設を整備する。

2. 長期滞在施設建設 ・・・平成26年9月初旬運用開始予定
   ①本院敷地内に、1LDK2室を有する宿泊施設(ハーモニーハウス)を建設する。
   ②本院敷地内に建設する利便性を考慮し、滞在施設としての利用だけでなく、小児がん患者家族の休憩やコミュニケーションの場として活用する。

東海・北陸ブロック
三重大学医学部附属病院

資料4

今後の整備スケジュール

（ア）集学的治療及び標準的治療の提供　（イ）地域連携　（ウ）その他

（ア） 2. 小児がん集学的治療部門の活動（平成26年6月）
（1）小児がん集学的治療部門主催のケースカンファレンス・講演会・研修会等を開催していく。

（ウ） 2. 長期滞在施設建設（平成26年9月）
①本院敷地内に、1LDK2室を有する宿泊施設（ハーモニーハウス）を建設する。
②本院敷地内に建設する利便性を考慮し、滞在施設としての利用だけでなく、小児がん患者家族の休憩やコミュニケーションの場として活用する。



（イ） 1. セカンドオピニオン等、相談しやすい体制作り（平成26年11月）
（1）本院ホームページ上に小児がん拠点であることのバナーを作成し、そこからアクセスすることでセカンドオピニオンの申込ができる仕組みを構築する。



（ア） 1. 新外来棟建設 ・・・ 平成27年5月7日開院予定
（1）①外来化学療法部の中に、小児専用の診察及び治療のためのスペースを整備する。
②小児科外来の診察室を現病院より2室増室する他、プレイルームを整備する。
（2）①小児トータルケアセンターの配置エリア新設
→ スタッフを集約配置し、効率的・機能的な運用を図る。

（ウ） 1. 新外来棟建設 ・・・ 平成27年5月7日開院予定
（1）院内学級の充実 ①専用の相談室、トイレを備え、小児病棟から緒癖得9mの距離に位置し、患児にとって利便性に優れた院内教育施設を整備する。

平成26年	平成27年	平成28年以降

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

関東ブロック

神奈川県立こども医療センター

関東ブロック
神奈川県立こども医療センター

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																						地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍								その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規診療を施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数
(563) 729 746	(12) 17 7	(4) 7 10	(0) 2 1	(1) 0 1	(1) 2 1	(3) 4 2	(0) 1 0	(0) 0 0	(1) 1 2	(1) 5 3	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 2 1	(4) 3 6	(2) 0 6	(4) 5 3	(4) 7 4	(2) 1 2	(0) 4 3	(2) 1 3	(8) 11 13	(2) 3 1	(51) 67 81	(40) 44 53	(71) 197 141	(10) 8	122

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値、下段は２５年１月から２５年１２月までの数値

関東ブロック
神奈川県立こども医療センター

資料2

指定前後の変化

● 進捗があった点

第１　集学的治療及び標準的治療の提供

○　症例毎にキャンサーボードを開催し、平成26年1月から6月まで計20件の症例検討を行いました。開催にあたっては地域の連携病院に開催の通知を行いました。

○　昭和大学北部病院、昭和大学藤が丘病院、横須賀市立うわまち病院、横浜市立大学附属病院を交た定期的な症例検討会を開催しました。

○　平成25年11月に緩和ケア外来を開設し、緩和ケアの提供対象を入院患者だけでなく外来患者にも拡大した。

○　平成26年3月に外来化学療法室を整備し、現時点で5名の小児がん患者に対し、骨髄抑制などの副作用が強くない化学療法を外来で施行しています。

○　化学療法を中心とした小児がん治療の安全性向上のため、栄養サポートチームによるすべての小児がん入院患者の栄養管理、口腔衛生管理を行う体制を整備しました。

○　ALL-B12などJPLSGが行う臨床試験に積極的に参加しています。

○　平成25年４月に医師４名（うち1名専従）、看護師４名（うち１名専従）、薬剤師、臨床心理士、保健師及び医療ソーシャルワーカーからなる「緩和ケア普及室」を設置し、更に緩和ケアチーム（Palliative Care Team: 以下PCT）にファシリティドッグ及び、そのハンドラーを加えることで、その体制の強化を図りました。

○　PCT専従医師・看護師による毎日の病棟ラウンドに加え、毎週一回のPCT回診を通じてセンター内で提供されている緩和ケア、新たな緩和ケアのニーズの把握に努めています。

第２　地域連携

○　横浜、横須賀地区の他の小児がん診療施設とともに合同の症例検討会を開催し、これらの施設との連携強化に取り組みました。

○　県内の他の医療機関、関東甲信越地区小児がん拠点病院を対象とした緩和ケアセミナー、小児がん拠点病院看護師交流研修を開催しました。

○　小児血液・腫瘍専門医を育成するため、シニアレジデント２名の研修を行っています。

○　成人型の消化器がんを発症した小児例に対し、横浜市立大学附属病院第2外科と緊密に連携できる体制を構築し、実際に15歳の胃がん患者に適用しました。

○　患者ごとの必要性に応じて、陽子線治療を静岡県立がんセンターに依頼するなど適宜、対応しました。

○　当センター内分泌・代謝科によるCCS外来が開始され、おもに造血細胞移植を受けた患者、脳腫瘍の患者を対象にして、内分泌学的な長期フォローアップを行う体制を整備しました。

○　退院後の継続支援として、当センター血液・再生医療科による、患者、家族を対象としたグループ診療を開催しました。

○　指定後の登録医療機関数が99件増加しました。（平成26年度6月現在　464機関）

○　当センターの小児がんに関わる取組状況の適切な情報提供のため、広報誌「連携室だより」において小児がん拠点病院としての取組を積極的に紹介しました。

関東ブロック
神奈川県立こども医療センター

資料2

指定前後の変化

第３　その他の取組み

○　平成25年４月に小児がん相談支援室を設置し、相談体制を強化しました。平日昼間に常設し、看護師・保健師が相談窓口を担当していることにより、患者、家族のご相談から、ニーズを把握することができ、課題の早期解決などにつながっています。

○　小児がん相談支援室を設置し、小児がんをクローズアップしたことにより、行政機関と協力し、地域の支援者の育成を目的とした研修会や患者、家族、地域住民、地域の医療関係者を対象に小児がん相談支援室セミナーを開催して普及啓発することができました。

○　平成25年４月に退院･在宅医療支援室を設置し、在宅で治療を受ける小児がん患者の増加に対応した、地域の医療・保健・福祉機関の支援に取組むとともに、主に訪問看護ステーション対象とした看護師交流会を開催しました。

○　エルウィナーゼ、ニロチニブの治験を行うなど、小児がん治療に用いる新規薬剤の開発に協力しました。

○　院内がん登録システムを整備し、地域がん登録、日本小児血液・がん学会登録にも積極的に参加しています。

○　白血病細胞を用いた、試験管内での薬剤感受性試験を行う体制を整備し、他院からの依頼に応じて平成25年は、21件の難治性白血病に対して検査を行いました。

○　患者への教育及び復学支援に向け、病棟科長、血液再生医療科医師、院内学級教諭、保育士と定期的にカンファレンスを行い、ベッドサイドでなく、学習の場所としての環境整備を今ある状況の中から工夫しながら整えています。

○　退院後外来フォローに移行したこどもで、復学や支援級への移行など生活に関連した課題がある場合には、教育コーディネーターとの調整を図りながら支援を行っています。

●　進捗がなかった点

第１　集学的治療及び標準的治療の提供

○　より直接的に治療内容の検討を行うキャンサーボードに他院からの参加がありませんでした。周知の方法を改善するとともに、他院からでも参加しやすい開催時間を検討する必要があります。

○　末梢型中心静脈カテーテルの導入や栄養サポートチームによる小児がん治療への介入が実際、安全性の向上に貢献しているか、評価はできていません。感染症の発生率などを経時的に評価する必要があります。

○　小児がん拠点病院としての広報が十分にはできていません。小児がん拠点病院としての取組を広報するにはホームページの整備が必要です。

○　治療後の逆紹介は制度化されておらず、多くの場合は治療後も当センターで定期健診が続けられています。後方搬送を円滑に行うためには、地域の他の小児がん診療施設との緊密な連携が必要です。

第２　地域連携

○　地域の小児がん診療施設や行政機関による連携協議会が未設置です。拠点病院としての役割を果たしていくためには、地域との連携が不可欠であり、協議会の設置が必要です。

第３　その他の取組み

○　今後、さらに多くの治験等に対応するためには治験管理室の拡充や小児がん治療に特化した臨床試験管理部門の設立が必要です。

○　学習場所の環境整備を進めていますが、十分な場所がなく、今後利用可能な部屋の運用などを考慮していく必要があります。

関東ブロック
神奈川県立こども医療センター

事業実績報告

資料3

病院名：神奈川県立こども医療センター

		（対象経費の実支出額）
平成２５年度小児がん拠点病院機能強化事業費	15.6百万円	（18.4百万円）
・小児がん医療従事者研修事業 緩和ｹｱｾﾐﾅｰ（3回/年）実施に係る講師謝金 研修会（講演会）講師謝礼	0.2百万円	（0.2百万円）
・院内がん登録促進事業 院内がん登録業務専任者の雇用（非常勤1名）	2.6百万円	（2.7百万円）
・がん相談支援事業 連携室たより印刷、小児がん相談支援のための図書等 がんの子供を守る会リーフレット送料 がん支援相談員の人件費 長期フォローアップ用事務員人件費	0.9百万円	（1.1百万円）
・プレイルーム運営事業 プレイルーム運営病棟保育士の人件費	11.9百万円	（14.4百万円）

関東ブロック
神奈川県立こども医療センター

資料4

今後の整備スケジュール

・集学的治療及び標準的治療の提供

○　当センターでの治療が終了した後でも身近な地域で継続して医療、観察が受けられるよう地域連携クリティカルパスの作成を進めます。

○　平成27年夏ごろまでを目安に、小児がん拠点病院としての当センターの取組を公開するホームページを開設します。また、難治性小児がん患者本人や家族に対する情報公開も行います。

○　神奈川における小児がん診療連携施設との協議会を開催し、難治性小児がん患者治療後の後方搬送についても協議を行います。

○　小児がんの在宅緩和ケアの更なる推進に向けて環境整備に努めます。

○　各セクションへの緩和ケアリンクナースの配置を目指します。

・地域連携

○　地域の他の小児がん診療施設と、連携協議会などを通して連絡を強化します。今年7－10月に神奈川県内における連携協議会の準備会を開催し、第１回の連絡協議会を今年度中に開催します。

○　関東甲信越地区の他の小児がん拠点病院と連携し、小児血液・がん専門医を目指す医師を対象とした研修会を開催します。

○　各種成人型がんについて、得意な病院・医師のリストを作成します。

○　神奈川県立がんセンターの重粒子線治療施設が稼働した場合、小児がん患者も治療が受けられるよう整備を進めます。

○　関東甲信越地区の小児がん診療施設連携協議会で、小児がん拠点病院で対応することが難しい疾患について協力を得られる施設を検討し、患者紹介などの体制を整理する予定です。

関東ブロック
神奈川県立こども医療センター

資料4

今後の整備スケジュール

○　県内の成人診療施設と連携をとり、成人期の小児がん経験者が成人科に過不足なく移行できる診療体制を構築します。

○　県内の連絡協議会には県立がんセンター等成人診療施設にも加わっていただき、移行期医療についても対策を協議します。

○　県内外の登録医療機関が増えるよう、引き続き、研修事業や病院訪問を通して取り組むとともに、登録医療機関を中心にして、かかりつけ医による日常診療（一次救急、予防接種など）を推進します。
・日常診療を行う診療所の医師を対象とした研修の開催　　5月　11月
・診療所訪問　5～6回

・その他の取組み

○　昨年度新規に開催した小児がん支援者向けの研修会（11月）、患者家族向けのセミナー（12月）を継続実施していきます。

○　JPLSGが行う再発急性リンパ性白血病に対するICG-GCP準拠臨床試験であるIntReALL SR 2010国際共同試験に参加します。（今夏開始予定）

○　難治性小児がんに対する治療では新規薬剤の導入が必要です。治験やその他のGCP準拠試験を実施するために、小児がん治療に特化したCRCを雇用し、小児がん臨床試験データセンターを開設します。

○　相談機能の強化として、現代の状況に沿った相談方法の充実を図ります。（メール相談の開始などの検討）

○　病状により集団学習に参加できない子どものための環境を整備するための場所や方法などを検討していきます。

○　入院中から、退院後の復学に向け、学校という集団生活の体験の機会を設けられるような体制づくりを考慮していきます。

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

関東甲信越ブロック

埼玉県立小児医療センター

関東甲信越ブロック
埼玉県立小児医療センター

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍												固形腫瘍								その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	MDS／MPDのうちCML	MDS／MPDのうちCML を除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症 ＨＬＨ	組織球症 ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症TAM登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者数	緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数
219	19	8	0	0	6	6	0	0	5	2	0	0	9	6	0	1	3	0	2	6	24	0	95	46	4	12	
184	13	11	0	0	3	5	1	0	6	3	0	0	2	4	1	2	1	2	1	4	14	2	73	41	8	32	49※
225	24	3	0	1	3	3	0	0	0	2	0	0	3	3	0	1	5	1	4	4	20	3	75	51	8		

【数値について】上段は、平成24年10月9日〆提出の新規指定申請書の数値（平成23年分実績）
中段は、平成25年12月末提出の現況報告の数値（平成24年分実績）
下段は、平成25年1月～12月の実績値
※相談支援センター相談件数の中段は、平成25年度現況報告時の「平成25年10月1日～11月30日」を記載している。

関東甲信越ブロック
埼玉県立小児医療センター

資料2

指定前後の変化

• 進捗があった点

I. 集学的治療及び標準的治療の提供

- 埼玉県がんセンターに依頼してIMRTを行うことが可能になった。
- JPLSG ALL-B12研究が開始されたこともあり、臨床試験登録数が大幅に増加した。
- 小児がん入院病棟の保育士を1名から2名に増員し、8:30から20:00まで常駐になった。
- 緩和ケアチームへの依頼件数が増加した。（平成24年度51件から平成25年度99件）
- 緩和ケア研修会を他施設に開放し、平成25年度は他施設から延べ23名の参加があった。

II. 地域連携

- 埼玉県小児がん診療病院連携協議会を設置し、第1回の会合を行った。
  特に整形外科領域の小児がんについての連携に向けた協議を開始した。
- ホームページに小児がん拠点病院のページを設け、相談支援センター、緩和ケアチーム、家族会会報の情報を追加した。
- CLSが常勤となり、また相談支援センターに配属され、綿密に連携した支援が可能となった。

III. その他

- 当センターでの研修希望が増加し、無給ではあるが2名が研修中である。
- 治験管理室を設置した。
- 医師事務作業補助者の配置を1.5倍にし、医師の負担軽減を図っている。
- 患者滞在施設として2室を病院で借り上げ、小児がん患者家族の長期滞在に対応した。

関東甲信越ブロック
埼玉県立小児医療センター

資料2

指定前後の変化

• 進捗が無かった点

I. 集学的治療及び標準的治療の提供
- 小児がん拠点病院としての業務が増加し、患者も増加傾向であるが、医師や相談支援部門の人的増員が実現していない。
- 臨床試験登録数は増加しているが、臨床試験を支援する人員の配置はできていない。
- 臨床心理士が不足しているため、小児がん患者の精神・心理的側面での支援が不十分である。また認知機能の評価や支援も脳腫瘍患者以外ではほとんどできていない。
- 思春期の患者は増加傾向であるが、プライバシーに配慮した入院環境の整備は進んでいない。

II. 地域連携
- 県内の小児がん患者の実際の流れが把握できていない。
- 長期フォローアップ外来が設定されていない。

III. その他
- 緩和ケア研修を除いては、研修事業が実現していない。
- 治験管理室はできたが、担当者は専従ではなく、その業務のほとんどを薬剤部で兼務している。
- 小児がん拠点病院で唯一CRCが配置されておらず、医師主導治験では医師が書類作成等を行っている。
- 高校生への教育支援は実現していない。

（要望）・CLSの資格更新のための海外研修費用については、小児がん拠点病院機能強化事業費の予算措置がなく負担が大きい。是非、予算措置に含めていただきたい。

関東甲信越ブロック
埼玉県立小児医療センター

事業実績報告

資料3

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費　　5．4百万円

内　訳

・小児がん医療従事者研修事業　　0．3百万円
（研修会開催2回、県内連携病院協議会開催）

・院内がん登録促進事業　　0百万円

・がん相談支援事業　　1．1百万円
（MSWによる患者、家族相談支援）

・プレイルーム運営事業　　4．0百万円
（患児保育のための病棟保育士の配置）

・入院患者家族支援事業　　0百万円

関東甲信越ブロック
埼玉県立小児医療センター

資料4

今後の整備スケジュール１

Ⅰ．集学的治療及び標準的治療の提供

・平成27年度および新病院に移転する翌28年度に小児がん診療に従事する医師の増員を実現する。
・相談支援部門の人員を増員する。
・平成26年8月に臨床心理士（臨時職員）1名を増員し、小児がん患者の精神・心理的支援を充実する。
・平成26年度中に再発ALLを対象としたICH-GCP準拠の臨床試験に参加する。
・平成28年に移転予定の新病院では、無菌病棟の新設、PICUの充実を行い、より安全かつ高度の診療を実現する。
・埼玉県内の血液内科との連携を更に強化し、高校生の受け入れを拡大する。新病院では思春期患者用の病棟の整備を行う。
・地域に開放した緩和ケア研修会を毎年継続し、他施設からの参加者増加を図る。関東甲信越ブロックレベルでの研修とも連携する。
地域の医療機関等からの緩和ケアの相談に応需可能な体制の整備に向けた検討を平成26年度中に開始する。
・緩和ケアレベルの向上のために、院内での疼痛評価システムの統一化を図る。平成27年度中に限定された病棟で新評価システムの試行と評価を行い、翌28年度には病院全体に広げる。

関東甲信越ブロック
埼玉県立小児医療センター

資料4

今後の整備スケジュール２

II. 地域連携

- 埼玉県小児がん診療病院連携協議会を定期的に開催する。
- 骨肉腫等の整形外科領域の診療連携を平成26年度中に進める。
- 平成26年度中に造血細胞移植患者の長期フォローアップ外来を開設する。
- 新病院では移植患者以外も対象とした長期フォローアップ外来を開設し、隣接するさいたま赤十字病院と連携して充実した長期フォローアップを実現する。
  そのために平成26年度中にさいたま赤十字病院との協議を開始する。

III. その他

- 平成26年度秋から小児がん看護研修を開始する。
- OSCRデータセンターの支援を受けて、平成26年度中に臨床試験支援の人員を確保する。新病院ではCRCの配置を実現する予定である。
- 高校生への教育支援に向けて、教育委員会と協議を開始する。

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

近畿ブロック

兵庫県立こども病院

近畿ブロック
兵庫県立こども病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																								地域連携		緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍												固形腫瘍										その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新で療実し小が患数が規診を施た児ん者	相談支援センター相談件数
(536) 581 616	(14) 13 15	(6) 5 6	(1) 0 0	(0) 0 1	(4) 6 0	(5) 0 4	(1) 0 0	(0) 0 0	(0) 1 6	(3) 1 1	(0) 0 0	(0) 0 0	(1) 1 3	(8) 7 3	(2) 5 5	(4) 3 1	(1) 3 1	(0) 2 2	(3) 1 3	(14) 2 6	(11) 17 16	(4) 3 7	(72) 85 74	(55) 47 49	(6) 7 36	(20) 7 18	10 81

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値、
下段は平成２５年１月～１２月の数値

近畿ブロック
兵庫県立こども病院

資料2

指定前後の変化(1)

• 進捗があった点

○診療

[1]小児がん医療センターの開設

1)専属のCRC(Clinical Research Coordinator)及びがん登録クラークの配置。
2)がん相談支援室が設置され、専任の看護師、MSWを配置。
入院／外来を問わず患者家族の各種相談への円滑な対応が可能となる。
3)緩和ケア委員会の下部組織として緩和ケアサポートチーム(にこにこサポートチーム)を設置。
4)長期フォローアップ外来を開設。造血細胞移植後患者を対象に他科と連携しながら、より総合的なフォローアップが可能となる。

[2]患者支援

1)ビーズ・オブ・カレッジを入院および外来の小児がん患児に導入。
2)ホスピタルプレイスペシャリストと連携した幼児・学童に対する積極的なプレパレーションの推進。
3)小児がん経験者の長期フォローアップの一環として、本年8月にボランティア団体と協力したサマーキャンプを計画、実施予定。
4)入院患者の心理的サポートへの臨床心理士の介入。

○連携

1)今年度より兵庫県がん診療連携協議会に参加し県内の成人領域のがん拠点病院と定期的に情報を交換する。
2)中四国との連携:広島大学を中心に中四国の小児がん診療病院で月1回開催されているTV会議に参加し、中四国施設とのより密接な連携が図られるようになった。
3)平成28年に移転予定の新病院に隣接して、小児がんに重点を置いた粒子線治療センターが開設されることが決定。患者搬送や鎮静のための医師の配置など、運用面での具体的な検討を開始。

近畿ブロック
兵庫県立こども病院

資料2

指定前後の変化(2)

○教育

1)昨年まで血液腫瘍内科に所属した2名のフェロー医師が、各々別の小児がん専門施設に異動して活躍を続けている。
2)新年度より血液腫瘍内科はフェローを5名に増員し、引き続き積極的に小児がん専門医を目指す若手医師を教育・育成に努めている。
3)全職種対象の当科医師・看護師等による定期的な院内勉強会開催。

○研究

1)当院は神戸大学の連携大学院となっている。神戸大学から講師を招き、統計学についての講演会を定期的に開催している。
2)ICH-GCPに準拠した臨床試験に参加する。スタッフのICR臨床研究入門web受講を督励。

• 進捗が無かった点

1)長期フォローアップ外来が開始されたが、その対象が造血細胞移植後患者のみ。
→代謝内分泌科をはじめ、他科との連携をさらに強化し、対象症例を拡充する。
2)AYA世代、特に院内学級制度が適用されない高校生の学習面での支援が不十分。
→ボランティア大学生による学習支援システムの構築を目指す。
3)療養環境全般の不備:当院は1971年に建設され、病棟および諸設備の著しい老朽化と狭隘さ。
→平成28年の移転新築計画が進行中。1床あたりの面積を増加し、空調他の環境面を充実させる。
4)臨床心理士の専任化。
→臨床心理士増員の上、専任化を目指す。

近畿ブロック
兵庫県立こども病院

資料3

事業実績報告

病院名：兵庫県立こども病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費　14百万円

・小児がん医療従事者研修事業　0百万円

小児がん・緩和医療に関する講演会（6回）、緩和ケアチームに対する緩和ケア研修会（1回）、がん相談支援センター相談員研修（1回）の開催

・院内がん登録促進事業　0百万円

入院・外来がん登録の実施（院内登録件数74件）、診療情報管理士・がん登録実務者の連携促進

・がん相談支援事業　9百万円

面談、電話等によるがん患者の療養上の相談（相談件数88件）、情報提供、がん相談支援センター業務の広報（セカンドオピニオンの受入れ8件、紹介5件）

・プレイルーム運営事業　5百万円

小児がん入院患者の療養環境を維持・改善するためのプレイルームの運営継続、病棟保育士の配置、絵本・玩具類の購入

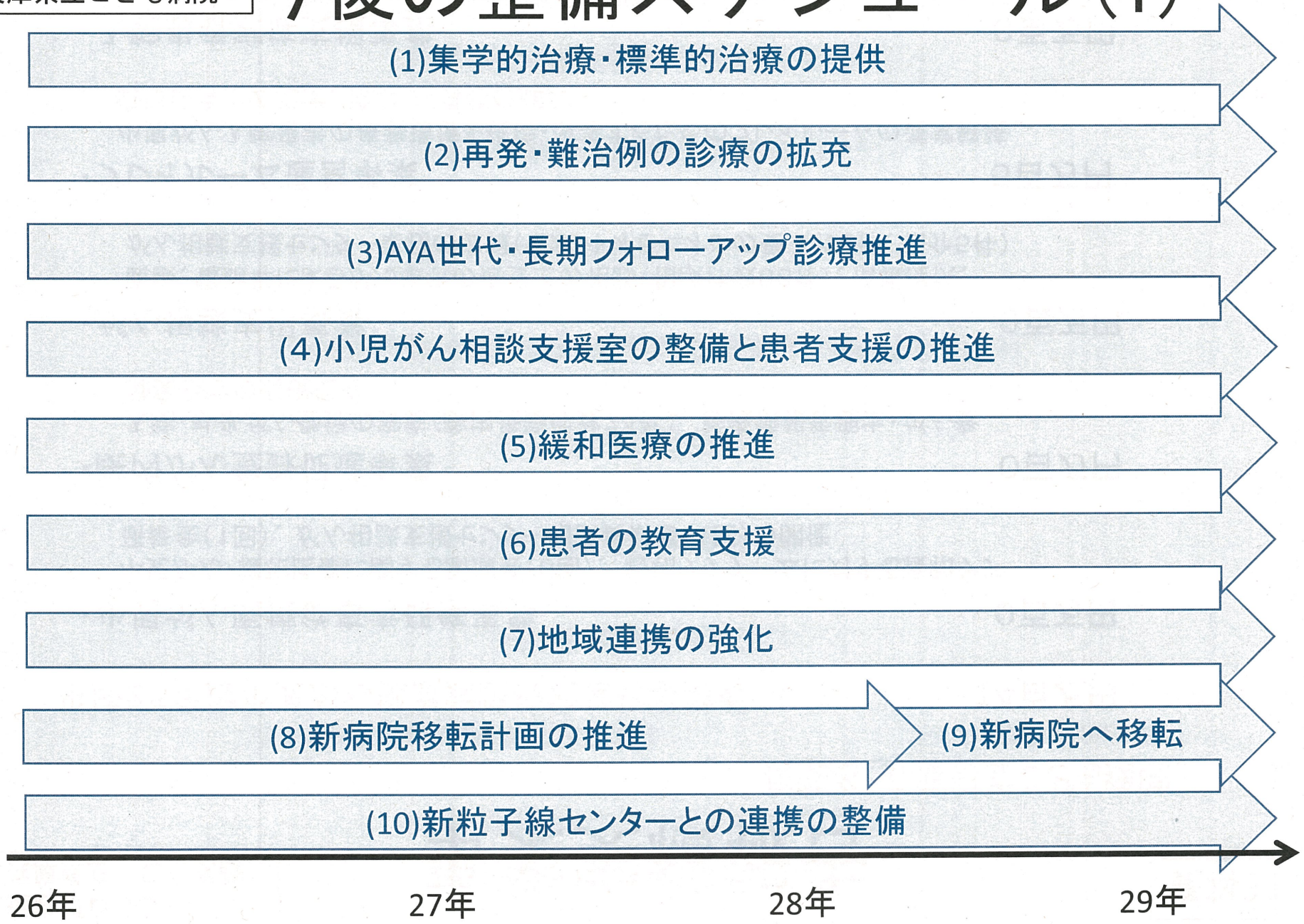
・入院患者家族支援事業　0百万円

小児がん入院患者の付き添い家族等が利用する滞在施設の運営

近畿ブロック
兵庫県立こども病院

今後の整備スケジュール(1)

資料4



近畿ブロック
兵庫県立こども病院

資料4

今後の整備スケジュール(2)

平成26年4月　:小児がん医療センター開設(1)(2)
　　長期フォローアップ外来開設(3)
平成26年6月　:にこにこサポートチーム(緩和ケアチーム)診療開始(5)
平成26年7月　:『小児がんに対する粒子線治療を考えるフォーラム』開催(9)
　　ICH-GCP準拠の臨床試験『IntReALL 2010国際共同研究』に参加(2)
平成27年4月　:長期フォローアップ外来の対象症例拡充(3)
　　専属のMSW配置(4)(7)
　　臨床心理士の専任化(4)(5)
　　小児がん診療地域連携パス整備(7)
　　ボランティア大学生による高校生向け学習支援システム整備(3)(6)
平成27年9月　:緩和ケア認定看護師配置(5)
平成28年5月頃:新病院へ移転(9)
　　病室・リハビリ室・プレイルームなどの拡充(8)
　　訪問学級から院内学級へ(6)(8)
　　患者家族宿泊施設拡充(11室→16室)　(4)(7)
平成29年5月頃:小児に特化した粒子線治療センター新病院隣接地に開設(10)

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

近畿ブロック

京都府立医科大学附属病院

近畿ブロック
京都府立医科大学附属病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍								その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療し小児が患者数を施した児ん者	相談支援センター相談件数
(223) 232 224	(7) 8 3	(5) 3 2	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 0 1	(2) 2 2	(1) 0 0	(0) 0 0	(0) 0 0	(1) 2 2	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 1 3	(4) 4 2	(1) 0 1	(1) 0 1	(2) 1 2	(1) 0 4	(5) 4 3	(3) 6 5	(4) 2 3	(0) 0 4	(32) 26 37	(26) 22 26	(34) 32 36	(5) 8 16	(238) 60

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、下段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値

近畿ブロック
京都府立医科大学附属病院

指定前後の変化

資料2

- 進捗があった点

・集学的治療や標準的治療の提供
（1）チームによる集学的治療及び標準的治療の実施体制
- ➢小児がん専用キャンサーボードルームの整備を行い頻回に開催
- ➢口腔ケアの導入により口腔内感染の減少と疼痛の減少
- ➢栄養士による献立相談の取り組みにより食事摂取量の改善
- ➢リハビリの導入により、筋力回復

（2）思春期のがん患者への診療体制
- ➢成人病棟での治療によりAYA世代患者の増加
- ➢個別高等教育の開始により思春期がん患者の意欲の向上
- ➢院内での高校入学試験の実施により復学を支援

（3）緩和ケアチームによる緩和ケアの実施体制
- ➢緩和ケア病棟設置
- ➢疼痛緩和専門医への依頼により疼痛のきめ細かな管理
- ➢終末期の患者及び家族への心理士の介入により心理的緩和
- ➢訪問看護ステーションとの連携により、在宅医療の促進

・地域連携
- ➢ 近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の開催（4回）により連携
- ➢ 近畿ブロック小児がん診療病院連絡会の開催（1回）により拠点病院以外の病院との連携
- ➢京都府立医科大学主催教育研修会の開催により医療関係者の研修と地域連携(H25.3.22)
- ➢「京都府小児がん拠点病院連携推進会議」を3回開催し京都大学との連携
- ➢京都大学との連携として「京都府小児がん拠点病院連携シンポジウム」の開催により、地域連携の推進(H26.3.21)

・その他
（1）研修の実施
- ➢小児がん医療従事者研修事業、小児がん拠点病院指定記念研修会の開催(H25.3.22)
- ➢看護学生、医学部生、ノートルダム女子大学ボランティア養成講座生、京都造形芸術大学生の実習受け入れにより多職種教育に貢献

近畿ブロック
京都府立医科大学附属病院

指定前後の変化

資料2

- 進捗があった点

（2）相談支援体制
　➢全国からの小児がん相談件数の増加　H24年度 100件→H25年度 307件
（3）臨床研究及びトランスレーショナルリサーチの実施体制及び研究
　➢研究開発・質管理向上統合センターの開設により臨床研究の推進
　➢大学院医学研究科医療フロンティア展開学の新設により臨床研究の推進
　➢生物統計学教室の開設により臨床研究の質の担保
（4）患者の発育および教育、復学支援
　➢ピアサポーターの活動に協力
　➢きょうだい支援（京都YMCAなどボランティア、保育士）
　➢情報公開HPの整備、府民公開講座「子どもたちの未来のために」の開催(H25.3.25)による患者への情報提供
　➢高校教育の援助、院内高校受験の実施
　➢定例の小児がん「ひだまりサロンfor kids」の開催時に託児所を開設（年4回）

- 進捗が無かった点

（1）チャイルドライフスペシャリストの雇用
　➢稀少職種であり、採用が困難であるため、現行の保育士が子ども療養支援士などの資格を習得するように研修を受講する予定である
（2）小児がん拠点病院委員会の設置
　➢関係各部署と調整の上26年度に設置を予定
（3）公的高校教育の導入
　➢京都府および近隣都道府県の教育委員会へ働きかけ、訪問教育の実施を目指す
（4）サルコーマセンターの設置
　➢病院整備計画への盛り込み

近畿ブロック
京都府立医科大学附属病院

事業実績報告

資料3

病院名：京都府立医科大学附属病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費　　15百万円

・小児がん医療従事者研修事業　　8．1百万円
　プレゼンテーションシステム等備品購入、研修会補助職員賃金、
　研修会開催費用　等

・院内がん登録促進事業　　2．6百万円
　登録実務委託、精度管理費用　等

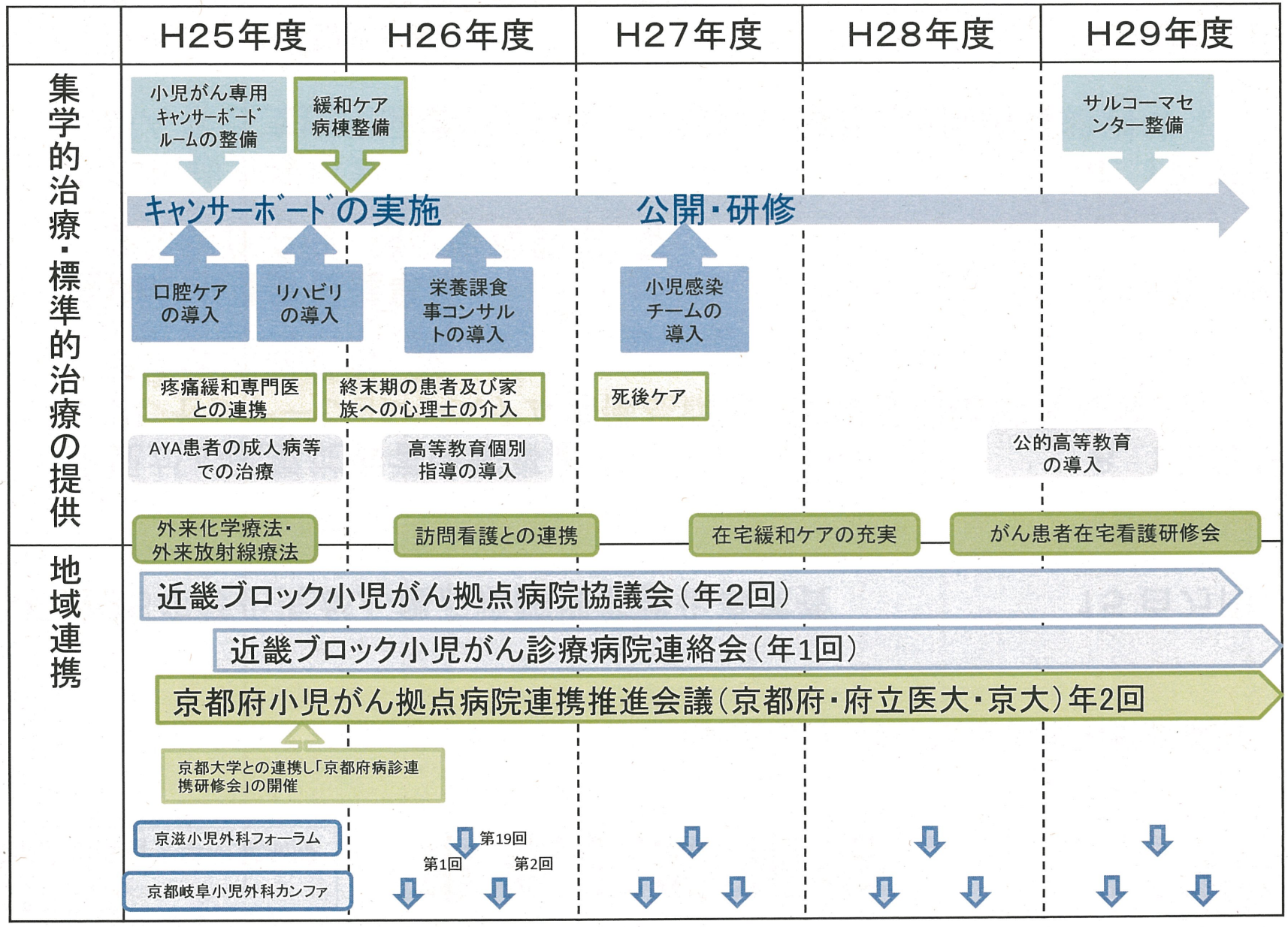
・がん相談支援事業　　4．1百万円
　がん相談支援用図書、資料作成、相談用備品、相談職員給料等

・プレイルーム運営事業　　0．2百万円
　プレパレーション備品、おもちゃ等購入

近畿ブロック
京都府立医科大学附属病院

資料4

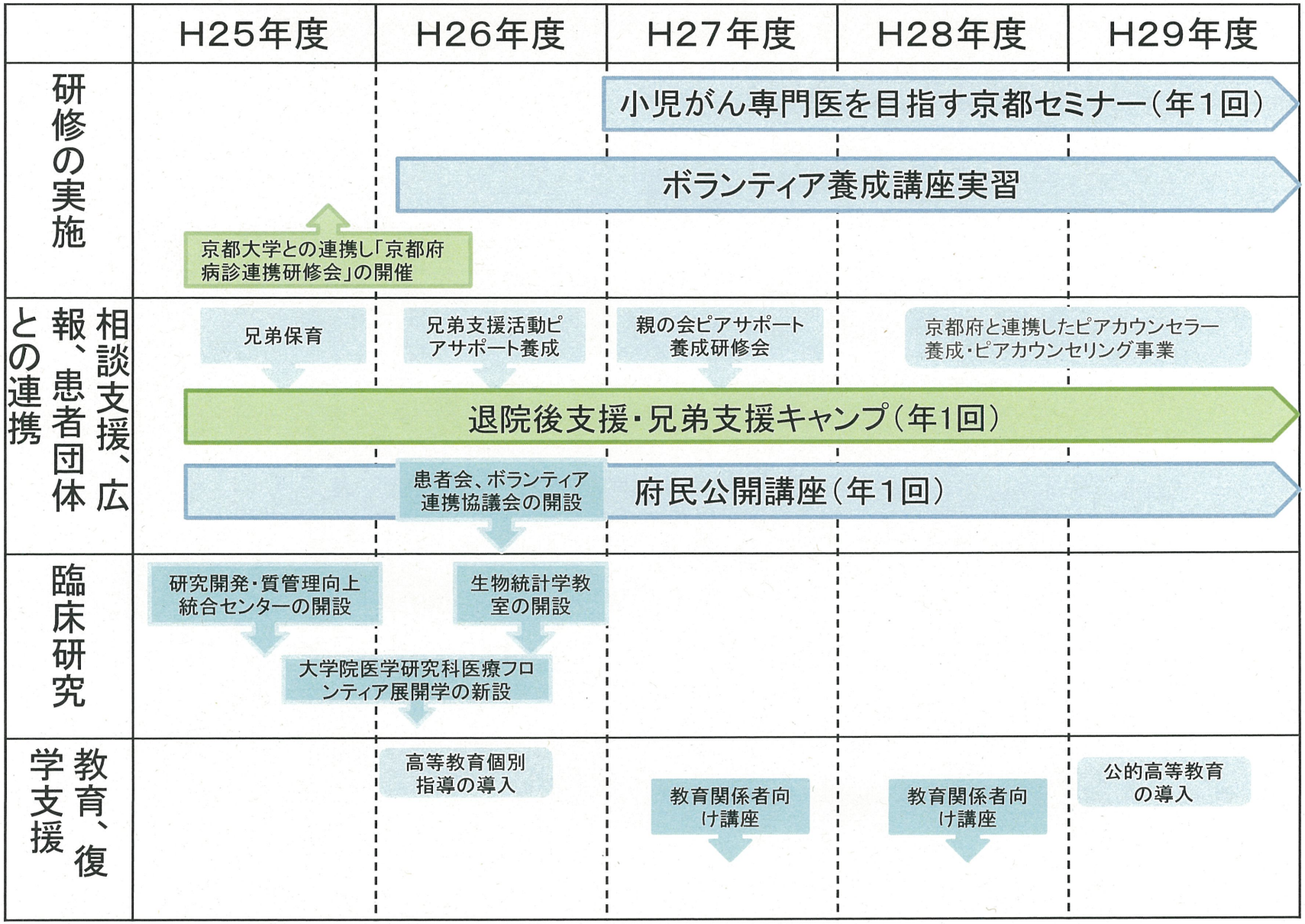
今後の整備スケジュール



近畿ブロック
京都府立医科大学附属病院

資料4

今後の整備スケジュール



小児がん拠点病院整備の進捗状況について

近畿ブロック

京都大学医学部附属病院

近畿ブロック
京都大学医学部附属病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍								その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療を施した児童数	相談支援センター相談件数
(210) 274 《215》	(8) 6 《4》	(2) 1 《1》	(0) 0 《0》	(2) 0 《2》	(0) 0 《2》	(2) 2 《2》	(0) 0 《0》	(0) 0 《0》	(0) 0 《0》	(0) 1 《1》	(0) 0 《1》	(0) 0 《0》	(0) 1 《1》	(0) 3 《2》	(0) 0 《2》	(1) 0 《1》	(1) 1 《1》	(3) 0 《2》	(1) 2 《1》	(0) 1 《0》	(5) 9 《6》	(0) 0 《0》	(78) 99 《55》	(46) 77 《49》	(25) 61 《30》	(12) 7	127

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値（平成２３年１月～１２月）
・中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値（平成２４年１月～１２月）
・《　》内は平成２５年１月～１２月の数値

近畿ブロック
京都大学医学部附属病院

資料2

指定前後の変化

進捗があった点

☆小児がん医療従事者研修事業

1） 研修体制の充実化

院外より講師を招き小児緩和ケアカンファレンス、小児緩和ケア勉強会を開催

2） Web会議システムの導入

連携病院との情報共有の利便性のため、Web会議システムを導入

☆院内がん登録促進事業

1）院内がん登録などのデータ登録等の徹底

データ登録補助職員の計3名の雇用を継続し、データ入力･連絡業務の確実･迅速化

☆がん相談支援事業

1） 小児がん相談体制の確立

- 小児がん専任のがん相談員１名を雇用し、成人のがん相談員と共同した相談体制
- 小児がんに関する図書、資料の拡充
- 小児科病棟、小児血液がん外来へ出張相談
- チャイルドピアによるピアサポート体制の確立

↓

相談実績の大幅な増加：5件→472件（平成25年度）

近畿ブロック
京都大学医学部附属病院

資料2

指定前後の変化

進捗があった点（つづき）

☆プレイルーム運営事業
1） 環境整備
- 老朽化した遊具の入れ替え、絵本など書籍の購入
- 床に厚手のマットを敷設、収納棚等の導入

☆入院患者家族支援事業
1）入院環境の整備
- 病棟内の小児用デコレーション、プリパレーション用玩具の購入
- 病室への簡易ソファーベッドの導入
- 病棟･外来にパンフレットなど説明資料を拡充

進捗が無かった点

該当せず

近畿ブロック
京都大学医学部附属病院

事業実績報告

資料3

病院名：京都大学医学部附属病院

平成２５年度小児がん拠点病院機能強化事業費　　１３．３百万円

☆小児がん医療従事者研修事業　　１．６百万円
・・・・・・　小児緩和ケアカンファレンス等講師謝金
Ｗｅｂ会議システムの整備等

☆院内がん登録促進事業　　４．２百万円
・・・・・・　小児がん症例の登録等のための人員雇用
登録データベース用ＰＣ及び消耗品の購入等

☆がん相談支援事業　　４．４百万円
・・・・・・　小児専任相談員の雇用、相談支援室の整備
がん拠点病院ホームページ作成等

☆プレイルーム運営事業　　１．９百万円
・・・・・・　プレイルーム環境整備用品購入（玩具、収納用品等）
病棟保育士の雇用

☆入院患者家族支援事業　　１．２百万円
・・・・・・　入院環境整備品購入（ベッド用テーブル，ウォールステッカー）
広報活動用パンフレットの作成

近畿ブロック
京都大学
医学部附属病院

今後の整備スケジュール

資料4

現在実施中であり、本年度さらに推し進めるもの

☆小児がん医療従事者研修事業
1） 小児がん医療従事者の育成
小児がんユニットカンファレンス、病理カンファレンス、各種研究会などの開催と公開

☆地域連携
1） 近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の開催（4回）
2） 近畿ブロック小児がん拠点病院連絡会の開催（1回）による拠点病院以外の病院との連携
3） 京都府小児がん拠点病院連携推進会議を3回開催し京都府立医科大学と連携
4） 京都府立医科大学と連携して「京都府病診連携研修会」の開催により、地域連携の推進
5） Web会議システムを活用した連携病院との症例検討
6） 患者会やピアサポートを通じた情報提供

☆集学的治療及び標準的治療の提供
1） 小児がんユニットのさらなる円滑な運用
- 合同カンファレンス等による関連他科とのよりシームレスな連携
- 院内の小児がん疑い患者への診療援助･介入

☆緩和ケア
1）小児緩和ケアチームの拡充
成人の緩和ケアチームと連携した包括的な緩和ケアの実施体制を推進

近畿ブロック
京都大学
医学部附属病院

今後の整備スケジュール

資料4

現在実施中であり、本年度さらに推し進めるもの（つづき）

☆がん相談支援事業
1） チャイルドピア･患者会支援
- チャイルドピア活動の継続
- ピアサポート研修を通じたスタッフ育成
- 患者会支援

☆AYA世代
1） 入院環境整備
- 連携する当該成人科とスムーズな診療が出来るよう連携を深め利用を促す
- AYA世代用の自習室をより使いやすいものにするべく引き続き環境整備を行う。

☆プレイルーム運営事業
1） 保育士、ボランティアグループの相乗的患児支援
「にこにこトマト」やホスピタルクラウンと連携した遊びの提供と病棟保育

計画中であり、本年度中に着手を目指すもの

☆プレイルーム運営事業
さらに需要に応えるため保育士1名の増員を計画中

☆入院患者家族支援事業
現行のファミリーハウス及び芝蘭会館以外の宿泊施設としてマクドナルドハウスの建設計画の検討開始

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

近畿ブロック

大阪市立総合医療センター

近畿ブロック
大阪市立総合医療センター

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携			緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍													固形腫瘍								その他					
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新で療実し小が患数規診を施た児ん者	支援センター相談件数
(329) 483 817	(9) 14 14	(5) 4 4	(0) 2 0	(0) 0 0	(4) 5 1	(3) 5 4	(1) 0 0	(0) 0 0	(1) 2 0	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 0 0	(0) 1 0	(3) 3 4	(2) 2 2	(1) 0 0	(0) 1 0	(0) 0 1	(2) 4 4	(1) 3 0	(15) 17 20	(0) 1 1	(59) 147 91	(50) 102 76	(21) 59 41	(35) 45 61	299

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値
　下段は平成２５年１月～１２月分の数値

近畿ブロック
大阪市立総合医療センター

指定前後の変化（実施できたこと）

資料2

- 診療実績
  - 患者数は増加傾向：今年上半期で新規患者数40名
  - AYA世代の増加：平成24年の6名から25年は12名に増加（他院血液内科や大阪府がん拠点病院からの紹介：おもに成人病棟で対応）
- 診療体制
  - レジデント１名の増員。レジデント１名を脳腫瘍基礎研究のため、国立がんセンターに派遣（２年間の予定）
- 医師主導治験
  - １件から２件に増加。さらにもう１件について研究費を申請中
- 長期フォローアップ外来
  - コーディネートナースの配置、多職種（小児内分泌科、小児言語科、心理士、MSW、コーディネートナース）によるカンファレンス（事前・事後アセスメント、介入方法の検討など）
- 心理サポート
  - AYA世代にも小児サポートチームの介入を開始
- 保育・教育
  - 長期入院乳幼児の発達の遅れを防ぐため、保育士を4名から6名に増員強化。同時にきょうだい保育も開始（これまではボランティア）
  - 学習ボランティアの導入
  - 専従MSWによる復学支援の強化
- 患者どうしの語らいの場の提供
  - 毎月外来通院患者の交流会を心理士、看護師、MSWが世話役となって開催
- 他院多職種の研修
  - 小児緩和ケアカンファレンスの開催（全国対象）

近畿ブロック
大阪市立総合医療センター

指定前後の変化
（実施できなかったこと）

資料2

- 地域連携
  - 大阪府内では地理的要因から逆紹介のニードが少ない。遠隔地からの患者はUまたはJターン紹介を実施。
- 専用病床の増床、AYA専用病床の確保（現状では分散している）
  - 空床の利用により、不要となった。
  - 化学療法専用病棟として成人用1病棟の確保を予定。その一画をAYA世代用とする。

近畿ブロック
大阪市立総合医療センター

事業実績報告

資料3

●実績報告に記載の項目

病院名：大阪市立総合医療センター

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費	14．5百万円
・小児がん医療従事者研修事業	0．1百万円
・院内がん登録促進事業	0．1百万円
・がん相談支援事業	6．5百万円
・プレイルーム運営事業	5．5百万円
・入院患者家族支援事業	2．3百万円

近畿ブロック
大阪市立総合医療センター

今後の整備スケジュール

資料4

小児がん施設間の連携構築については、近畿ブロック計画に沿って進める。

診療機能

- AYA世代専用病棟稼働
- トモセラピー稼働
- 長期フォローアップ外来の充実（コーディネーターナースの配置）
- レジデント、スタッフの増員

患者支援

- 乳幼児教育の充実（保育士増員）
- きょうだい保育（直営）の開始
- 外来交流会の開始（月１回）
- AYA世代交流会の開始（月１回）
- 宿泊施設の増室

研修機能

- 地域医療機関対象の研修会の開始
- 多職種研修会

平成26年度　平成27年度　平成28年度　平成29年度

小児がん拠点病院整備の進捗状況について

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績																					地域連携		緩和ケア	相談支援センター
	造血器腫瘍												固形腫瘍								その他				
小児がん入院患者数	ＡＬＬ	ＡＭＬ	まれな白血病	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬ	ＭＤＳ／ＭＰＤのうちＣＭＬを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症　ＨＬＨ	組織球症　ＬＣＨ	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症ＴＡＭ登録	神経芽腫瘍群	網膜芽腫	腎腫瘍	肝腫瘍	骨腫瘍	軟部腫瘍	胚細胞腫瘍	脳・脊髄腫瘍	その他	他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者	緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数
(162)	(16)	(4)	(0)	(1)	(2)	(3)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(1)	(2)	(0)	(1)	(4)	(1)	(0)	(0)	(7)	(0)	(33)	(25)	(17)	(10)	
155	11	3	0	0	1	2	0	1	0	3	0	1	3	3	2	3	2	0	4	2	10	2	47	38	22	5	111
149	10	6	0	0	0	4	0	0	1	1	0	0	0	7	0	2	0	0	2	1	13	0	49	45	32	19	

・（　）内は平成２４年１０月９日〆提出の新規指定申請書の数値、中段は平成２５年１２月末提出の現況報告の数値
　下段は、平成２５年１月～１２月の実績

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

資料2

指定前後の変化

＜進捗があった点＞

○ **患者数**

①新規診断患者数：２４年　５１人　→　２５年　４９人

※神経芽腫、脳腫瘍等集学的治療を要する固形腫瘍が増

小児がん患者のＰＩＣＵ入室者　２５年度４５人

②血液・腫瘍科ベッド稼働：２４年　２８．５人/日　→　２５年　３３．３人/日

○ **移植件数**　同種造血細胞移植　２４年　９件　→　２５年　７件

自家造血細胞移植　２４年　２件　→　２５年　７件

※脳腫瘍に対する治療として、自家造血細胞移植併用大量化学療法が増えている

○ **手術実績**　脳腫瘍　２４年　５件　→　２５年　１５件　※増加している

上記以外の固形腫瘍　２４年　１７件　→　２５年　１７件

○ **臨床試験参加数**　２４年　１９件　→　２５年　２０件／２１件　９５%の試験に参加

○ **人材養成（増加分）**

がん治療認定医機構がん治療認定医　１名

造血細胞移植学会移植認定医　１名

○ **ブロック内の他の拠点病院との看護交流研修を2回実施**

○ **長期フォローアップへの取組として、成人医療への移行外来を開設**

○ **小児がんに関する勉強会やTumorBoard（がん治療の検討会）を院外にも公開（２６年６月）**

○ **子どもがん相談支援センターを開設し（２５年１０月）ホットラインを設置**

○ **人員体制**

緩和ケア専従看護師の配置（２６年４月）、がん相談支援センターにＭＳＷの専務的非常勤職員の増員（２５年９月）、院内がん登録専務的非常勤職員配置（２５年５月）

○ **東京都小児がん診療連携協議会の事務局に指定**

①都内２拠点病院及び１２診療病院の詳細な診療情報を２６年３月にホームページ（http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/）に公開

②東京都小児がん診療連携推進事業の一環として、２６年３月に日本医科大学付属病院の前田教授による長期フォローアップガイドライン等に関する市民公開講座「子どものがんを考える」を開催

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

資料2

指定前後の変化

＜進捗が無かった点＞

○　**長期フォローアップ外来の開設**

⇒脳腫瘍患者をモデルケースとした、長期フォローアップ外来体制を２６年度中に開設するべく、ＷＧを立ち上げて対策を検討している。以下は長期フォローアップ外来体制の概要

・対象患者は半年から１年おきのフォローアップとなった患者
・事前にコアメンバー（血液・腫瘍科医、脳神経外科医、看護師、心理士等）で各患者のフォローアップ予定を作成
・一日で必要各科、部門を回れるようアレンジ（調整を担当するコーディネーターを育成）
・フォローアップ外来毎にカンファレンスを行い、必要があればフォローアップの方向修正
・昨年発刊されたＪＰＬＳＧ長期フォローアップ委員会によるガイドラインに基づいて実施

○　**小児がん診療の十分な実績を持つ他の医療機関との間での、Ｗｅｂなどを用いたカンファレンスによる症例の共有**

⇒東京都小児がん診療連携協議会の診療連携ネットワークにて症例検討会等を導入するよう検討していく

⇒臨床研究支援センターを中心に、Ｗｅｂによるオンラインカンファレンスのインフラを整備予定であり、活用を検討中

○　**ＡＹＡ世代への対応の強化**

⇒ＡＹＡ世代の患者さんの意見、視点を収集し、それを尊重した物品を選定・購入してプレイルームの整備を行う

○　**人員体制**

小児がんに携わるスタッフ（医師、看護師）の不足

⇒現状の患者数には対応できるが、増やすためには対策が必要
長期フォローアップや造血幹細胞移植に係るコーディネーターの確保が課題

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

事業実績報告

資料3

●実績報告に記載の項目

病院名：東京都立小児総合医療センター

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費	13百万円
・小児がん医療従事者研修事業	0円
・院内がん登録促進事業 報酬	2百万円
・がん相談支援事業 給与費	7百万円
・プレイルーム運営事業 給与費	4百万円
・入院患者家族支援事業	0円

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

資料4

今後の整備スケジュール

1集学的治療及び標準的治療の提供

項　目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
(1)チーム医療による集学的治療及び標準的治療の実施体制	・集学的治療の実績を積み重ねて、小児がん疾患を集約化	重症患者への対応強化 地域発症は標準的治療も引き続き対応していく		
(2)専門的な知識及び技能を有する医療従事者及び療養を支援する者の確保及び配置	・がん治療認定医機構 がん 治療認定医 ・造血細胞移植学会 移植 認定医	・緩和ケア認定看護師 ・小児血液・がん学会 認定外科医	・専門資格取得の推進	推進
(3)再発がん及び難治がんへの対応	・重症合併症患者の集約 ・治験の対応など新たな治療への対応	・ICH・GCP準拠の国際共同研究「IntReALL SR 2010」に参加	・再発難治がんに関する臨床試験に参加していく	推進
(4)患者が増えた場合の病床確保等の対応方法	35床	段階的に拡大		50床
(5)思春期のがん患者への診療体制		・AYA世代用プレイルームの整備	充実	
(6)緩和ケアサポートチームによる緩和ケアの実施体制	・他院の主治医又は看護師からの相談に対応	・研修の受け入れ ・緩和ケア加算の取得	充実	
(7)外来化学療法		・体制充実のため、がん化学療法看護認定看護師の取得を目指す	認定看護師増による体制強化	

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

資料4

今後の整備スケジュール

2地域連携

項　目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
(1)役割分担 ・東京都における小児がん対策	・都内病院の情報公開	・医師向け早期診断ハンドブック作成	・都小児がん診療連携ネットワーク内での診療連携を推進していく	推進
(2)患者を受け入れる主な地域 ・情報公開 ・Web、講演会での情報共有	・当院ホームページに小児がんのページを追加し、情報を提供	・ホームページの充実	推進	
(3)自施設では十分に対応できない疾患及び病態		・陽子線、重粒子線治療、MIBG治療等については関係施設と連携していく	・各施設の得意分野を生かした連携の強化	連携強化
(4)長期フォローアップ及び晩期合併症	・移行外来開設	・長期フォローアップ外来モデルケース(脳腫瘍)試行	・長期フォローアップ外来他疾患にも拡大	充実

3その他

項　目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
(1)研修	・看護師交流研修	・実習、研修の受け入れ	推進	
(2)相談支援及び患者団体との連携	・相談支援センター開設 ・ホットライン開設 ・市民公開講座	・相談員養成 ・相談件数把握 ・市民公開講座	推進	
(3)臨床研究及びトランスレーショナルリサーチ	・当院発の多施設臨床試験FN01を改定、継続中	国際共同臨床試験、研究を含め、国内で展開する臨床試験に参加していく		
(4)患者への教育及び復学支援	・分教室との連携 ・幼児教育、就学前支援	連携、支援強化		
(5)家族等が利用しやすい長期滞在施設の整備	・リフレッシュルーム利用時間拡大	・マクドナルドハウスとの連携強化	引き続き、サービス向上を目指す	
がん登録	・10月院内がん登録開始	小児の標準登録様式が確定次第、移行していく		